

2004 子どもゆめ基金 ガイド



独立行政法人
国立オリンピック記念青少年総合センター

子どもゆめ基金

目次

CONTENTS

「子どもゆめ基金」について	1	
「子どもゆめ基金」の概要	2	
平成15年度応募・採択状況	4	
平成15年度助成活動事例 <small>(子どもの体験活動)</small>	6	
平成15年度助成活動事例 <small>(子どもの読書活動)</small>	23	
平成15年度助成活動事例 <small>(教材開発・普及活動)</small>	30	
平成16年度応募・採択状況	35	
子どもの文化交流体験事業	37	
「子どもゆめ基金」への寄附団体	40	

「子どもゆめ基金」について

今日、社会全体のモラルの低下、地域社会の教育力の低下、メディア上の有害情報の氾濫など子どもたちを取り巻く環境が大きく変化しており、自分自身で考え創造する力、他人への思いやりの精神が身につけていないと指摘されています。また、子どもたちの社会性を育成する観点から、自然体験活動等の体験活動の充実や、言葉の教育の重視などが提言されております。

このような状況を踏まえて、「子どもゆめ基金」は、超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子どもの未来のために有意義な基金の創設を発意し、同議

員連盟が中心となって検討を進めてきたものを受け、平成13年4月に独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター法が改正され、さらに、平成13年度政府予算において措置された政府からの出資金100億円に加え、民間からの寄附を原資とする基金として創設されました。

この基金は、21世紀を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的に、民間団体が実施する特色ある新たな取組や、体験活動等の裾野を広げるような活動を中心に、様々な体験活動や読書活動等への支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

助成金の交付

助成対象活動

子どもの体験活動の振興を図る活動への助成

【活動例】

- ①子どもを対象とする体験活動
 - ・自然観察、キャンプなどの自然体験活動
 - ・清掃活動、高齢者介護体験などの社会奉仕体験活動 など
- ②子どもの体験活動を支援する活動
 - ・子どもの体験活動の指導者養成 など



子どもの読書活動の振興を図る活動への助成

【活動例】

- ①子どもを対象とする読書活動
 - ・読書会活動、読み聞かせ会 など
- ②子どもの読書活動を支援する活動
 - ・子どもの読書活動の振興を図るフォーラムの開催 など



子ども向けソフト教材を開発・普及する活動への助成

【活動例】

- ・子どもの体験活動や読書活動を支援・補完する、インターネット等で利用可能なデジタル教材を開発し、普及する活動



助成対象団体

民団法人、NPO法人など青少年教育に関する事業を行う民間の団体

普及啓発

子どもの体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発

平成15年度 応募・採択状況

◇活動区分別応募・採択状況

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	内定額
子どもの体験活動	1,910	1,723	1,275,061
子どもの読書活動	356	320	170,860
教材開発・普及活動	94	27	247,493
合計	2,360	2,070	1,693,414

◇子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	84	76	46,008
青森県	17	17	17,242
岩手県	22	20	6,157
宮城県	21	20	15,193
秋田県	14	11	3,805
山形県	16	13	6,637
福島県	31	26	15,378
茨城県	49	43	30,529
栃木県	18	16	8,206
群馬県	15	14	8,662
埼玉県	40	35	17,283
千葉県	55	53	30,482
東京都	313	284	448,469
神奈川県	52	49	34,622
新潟県	25	25	11,968
富山県	20	18	17,587
石川県	17	17	7,289
福井県	34	31	20,922
山梨県	25	24	20,181
長野県	68	59	41,578
岐阜県	33	27	21,043
静岡県	44	40	28,712
愛知県	39	35	27,432
三重県	32	31	14,941
滋賀県	66	54	24,526
京都府	72	64	29,689
大阪府	184	166	87,580
兵庫県	62	57	27,291
奈良県	25	23	8,054
和歌山県	15	15	8,900
鳥取県	16	16	6,467
島根県	18	18	10,767
岡山県	35	28	12,990
広島県	15	11	6,047
山口県	23	22	8,482
徳島県	31	28	20,127
香川県	9	9	4,131
愛媛県	16	13	7,066
高知県	12	11	5,446
福岡県	67	62	35,970
佐賀県	5	5	1,617
長崎県	27	20	7,926
熊本県	42	38	24,005
大分県	11	11	5,035
宮崎県	13	13	10,189
鹿児島県	52	46	15,204
沖縄県	10	9	7,226
総計	1,910	1,723	1,275,061

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。(以下、同じ)

◇子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	13	13	4,742
青森県	3	3	753
岩手県	4	3	597
宮城県	2	2	4,135
秋田県	1	1	100
山形県	1	1	183
福島県	12	10	7,390
茨城県	6	4	1,262
栃木県	10	9	2,814
群馬県	0	0	0
埼玉県	5	5	776
千葉県	4	3	992
東京都	35	31	47,354
神奈川県	9	8	1,444
新潟県	9	9	3,508
富山県	1	1	100
石川県	4	3	1,014
福井県	2	2	63
山梨県	2	2	1,133
長野県	23	20	5,796
岐阜県	1	1	327
静岡県	7	6	1,760
愛知県	2	2	3,830
三重県	4	4	866

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
滋賀県	17	15	9,450
京都府	11	10	2,775
大阪府	48	43	10,178
兵庫県	11	8	6,552
奈良県	11	10	5,510
和歌山県	1	1	578
鳥取県	5	4	5,027
島根県	10	10	3,557
岡山県	5	4	1,914
広島県	3	2	133
山口県	4	4	4,685
徳島県	8	8	1,896
香川県	6	6	1,413
愛媛県	3	2	274
高知県	3	2	876
福岡県	19	17	5,040
佐賀県	2	2	1,256
長崎県	4	4	321
熊本県	5	5	6,201
大分県	2	2	816
宮崎県	6	6	3,073
鹿児島県	10	10	3,865
沖縄県	2	2	4,531
総計	356	320	170,860

◇教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	4	0	0
福島県	2	0	0
群馬県	1	0	0
埼玉県	3	2	4,864
東京都	38	12	137,572
神奈川県	1	1	6,236
富山県	1	0	0
石川県	1	0	0
岐阜県	5	1	5,580
静岡県	6	2	29,427
愛知県	4	0	0
三重県	1	1	6,651
京都府	1	0	0

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
大阪府	10	5	42,361
兵庫県	4	2	8,229
奈良県	1	0	0
和歌山県	1	0	0
鳥取県	1	0	0
岡山県	2	0	0
広島県	1	0	0
山口県	1	0	0
香川県	1	0	0
福岡県	1	0	0
佐賀県	1	0	0
長崎県	2	1	6,573
総計	94	27	247,493

エンジョイスローライフ 田楽ふたつい

実施団体名 農業体験学習会 田楽ふたつい

連絡先 〒018-3132 秋田県山本郡二ツ井町字下野家後49（二ツ井町福祉会館内）
TEL：0185-73-2590 FAX：0185-73-2591

活動の概要

農業の機械化と省力化が進んでいる中で、生活に根ざしたスローな農業のあり方を子どもたちに考えてもらうために、減反による休耕田を利用して一年間の稲作体験活動を実施した。農作業においては極力機械を使わずに伝統的な農業民具を用い、また、環境への影響に配慮して有機肥料の使用とアイガモによる除草を行った。収穫した米は郷土料理等に調理して味わい、農閑期には作業体験を冊子に綴って体験を共有した。



縄ないに夢中な子どもたち

活動の内容

周辺市町村の小学生を中心とした親子の参加により、平成15年5月から平成16年3月まで次のような20回の体験活動を行った。各体験活動においては、農業に従事する地域の高齢者が多数協力参加し、世代間交流の場となった。

- 5月 田起こし、しろかき、田植え、田植え終了後の伝統行事さなぶり
- 6月 水管理、草取り、アイガモ観察、野菜の植え付け
- 7月 草取り、野菜の収穫、中干し
- 8月 案山子の製作
- 9月 稲刈り準備
- 10月 稲刈り
- 11月 脱穀
- 12月 郷土料理のだまこ餅とカレーで収穫祭
- 1月 記録集編集
- 2月 縄ないと餅つきで小正

月行事

3月 体験記録集発行

成果と課題

1年間を通じた体験により、子どもたちが農業と食物の大切さを感じるとともに、世代を超えた人との交流によって、生活の知恵を得ることができたものと考えている。

農業については、人力を中心とした稲作体験及び野菜作りを体験したことにより、生活に根ざした米・野菜づくりのための伝統的な知識や技術を学ぶことができた。

これまでは、特に意識せずに購入していた米や野菜がたくさん過程を経て生産されていることを知り、また子ども自身が手をかけて育てたことで、植物や食物を大切にしようとする意識や態度が育成された。

人的交流の面では、参加者の異学年交流により協調性や自主性が

培われたとともに、高齢者を中心とする地域の方々の協力により、体験活動が成立していることを感じとることができた。

なお、借上田のある地域においては、地区以外の子どもの多くが集まったことで、活動日の活動場所周辺は活況を呈し、地区住民が集う機会ともなっていた。また、地域の農業関係者も機械化された農業に慣れ親しんでいるが、この活動によって伝統的な農作業体験を再現したことにより、かつて地域が共同で行っていた農業を振り返り、地域社会の在り方を見直すきっかけともなった。

この活動によって、参加した子どもと高齢者による地域の世代間交流のきっかけができたので、今後は親の世代のネットワークを広げ、地域全体で子どもを巻き込んだ農業のあり方を考えることができるように展開していくことが課題である。

団体の概要

秋田県西北部の農村地帯である二ツ井町にゆかりのある有志で構成され、子どもたちに生活に根ざしたスローな農業を体験させる活動を行っている。農閑期の田に菜の花を植えて田を保護する活動や、地域の高齢者と子どもとの交流を進めるために伝承遊びの場を設ける活動も行っている。

2003いきるちからわくわく - 野外活動体験 学習障害児シーズンキャンプ -

実施団体名 財団法人 埼玉キリスト教青年会 (YMCA)
連絡先 〒359-1141 埼玉県所沢市小手指町1-39-2
 TEL : 04-2939-5051 FAX : 04-2929-2331
 E-mail : saitama@ymcajapan.org URL : http://www12.ocn.ne.jp/~saitamay/

活動の概要

日常生活の中で、失敗や経験を繰り返し、自分自身に自信を持つことができない子どもたちにとって、何気ない小さな成功体験の積み重ねと、仲間との関わりを通して成長していくことは非常に大切である。キャンプという非日常的な生活の中で、普段同じように悩みを抱えている仲間と時を共にしたり、普段はあきらめてしまうことに挑戦してみたりすることにより、お互いにお互いの良いところを発見し、自分自身を好きになることができる機会となる事を願いキャンプを実施した。

対象者：

- 定例グループ活動参加者 (月1回)
- 学習支援活動参加者 (週1回)

活動の内容

夏・冬のキャンプを実施するにあたり、それぞれ10回以上のポ

ランティアリーダー会を持ち、実施に向けてテーマ・ねらい・プログラム内容・対象理解などの検討を重ねた。

(1) サマーキャンプ (4泊5日)

テーマ：やってみよう！！

～興味・勇気・自信～

新しい環境やプログラムにまずは純粋に興味を持ち、勇気を持ってそのことに挑戦し、その挑戦が子ども達自身の自信につながるようアプローチを行った。慣れない環境の中でホームシックになったり、パニックになったりすることもあったが、一人一人の子どもたちにとって大きな成功体験の場と成り得た。

プログラム内容：カヌー・カヤック・海水浴・ゲーム大会・野外炊事・キャンプファイヤー・スリープアウト等

(2) スキーキャンプ (2泊3日)

テーマ：輪を広げよう！

～心に勇気を～□□□□

□にチャレンジ！

サマーキャンプで出会った友達や新しい友達と、共に過ごす喜びや楽しさを感じられるようアプローチを行った。テーマの□□□□の部分、子ども一人一人が自分のねらいを決め、そのねらいを心に留めてキャンプに取り組めるよう設定した。一人一人自分でねらいを設定することにより、『勇気を持って挑戦すること』・『自己評価』が可能となった。

プログラム内容：スキーレッスン・ゲーム大会・グループタイム・灯火の会等

成果と課題

規則正しい生活リズムの中、多くの成功体験を積み重ねたことが、子どもたちにとって、一歩踏み出すことのできる大きな勇気と成り得た。自分自身に自信を持ち、仲間と共に心から笑いあえたことが大きな宝であろう。この活動では、子ども達の成長のみを願うのではなく、関わるボランティアリーダーやスタッフの成長をも願っている。軽度発達障害への社会の理解は、未だ充分ではない。そのような地域社会にさらに理解を広めつつ、いつまでも子ども達と共に成長し続ける活動でありたい。



サマーキャンプでの1枚 入村式で話をきく

団体の概要

キリスト教精神に基づき、人々の関わりを通じて精神、知性、身体の向上をはかり、市民として国際人として優れた人格を築き、地域や社会に奉仕できる人びとを育成することを目的とした非営利の公益法人。語学・野外・健康・国際・幼児・LD支援事業などを行っている。

自然体験活動2003

実施団体名 日本フリースクール協会

連絡先 日本フリースクール協会事務局

TEL：03-3365-7390 FAX：03-3365-5401

E-mail：y.tanaka@tokyo-kokusai-gakuen.net URL：http://www.t-net.ne.jp/~eisei/jfsa.net

活動の概要

山梨県西湖畔のバンガロー。廃校となっている創立100年の学校。相模湖での魚すくいやソフトボール。都会に住む子ども達が普段味わうことのできない自然環境の中で、気分を一新して自然に親しみながら活動します。参加者は主に不登校生や軽度発達障害の子どもが対象で、兄弟姉妹・家族・友達などの参加も可能です。

人とのふれあい・協調性・共生などを自ら創り出した体験学習を行い、友達関係の作り方、共同作業の運営の中で“やれば、できる”という自信をもってもらい再登校をめざす。

活動の内容

2泊3日 自然体験ツアー（平成15年9月29日～10月1日）

第1日目 山梨県西湖 観岳園キャンプ場

現地のインストラクターの指導で岩登り体験をおこなった。いままで体験したことのない活動なので、準備体操・降りる際や落ちた時の体勢



キャンプファイヤーの準備

など指導を受けた。夕食はキャンプ場にて自炊、その後近くの温泉に行き更に交流を深めた。バンガローでは全員を紹介しあった。

西湖泊

第2日目 観岳園 → 山梨県 大須成学園（100年を越える木造校舎）

キャンプ場にて朝食（自炊）後、西湖の周りを軽く散策してからバスで移動、途中で鍾乳洞に寄っていく。大須成学園では付近の畑や沢を散策した。一昔前の木造校舎の教室で自由に過ごす。音楽室で楽器を演奏する子、読書にふける子、校庭でボール遊びをする子、など様々で、夜の楽しみであるキャンプファイヤーも現地スタッフの指導の元で短時間で完成させた。夕食は自炊だったがこれは有志に手伝ってもらった。キャンプファイヤーと花火をした。

第3日目 大須成学園 → 相模湖フリースクール

相模湖公園芝生の広場で昼食後、相模湖フリースクールの子も達とソフトボール、魚すくい、フリースクールの見学などして交流した。

成果と課題

岩登りは一度目のチャレンジで登りきれなかった子も、熟練のインストラクターや仲間達の声援と努力で再度チャレンジして最後まで登りきることができました。

参加者は全くの初対面の子から友達同士の参加まで様々だったが、人数がそれほど多くなかったので



岩登りに挑戦

班分けを敢えてせずに全員で行動した。一日目に困難な岩登りをしたことにより仲間意識が高まった。

大須成学園では学校が嫌い教室に入るのにも抵抗があるような子も参加し、普段は学校を思う存分満喫できない分、子ども達が積極的に楽しんでた。ツアー直後実際に学校に再登校した子どももいる。キャンプファイヤー後は火を消した後の種火の周りに数人が集まって長いこと語り合い、夜空の星を眺めた。

相模湖フリースクールの子も達と合同でやるソフトボールや魚すくいは新鮮だった。ツアー参加者（子ども）は多くないが、支援するインストラクター、スタッフ、ボランティアが総合で楽しみ、団体としての一体感を強く味わうことができた。たったの3日間でも、子どもは多くの人と接することができた。

団体の概要

- ① 不登校・引きこもりなど親にとっての心配・不安を少しでも解消する為に親子相談会を年間5～6回実施
- ② 各フリースクールにおける現場での指導実践例や展開方法など、その成果を知ってもらう広報活動
- ③ 有識者を講師に招き公開勉強会（年間5～6回）を実施し、フリースクールの存在や活動の広報につとめる。
- ④ 親子電話相談・メール相談を平日（月曜～金曜）受けている。

「子どもチャレンジホステリング」

実施団体名 財団法人 日本ユースホステル協会
連絡先 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-1-16 神田アメリックスビル内
 TEL : 03-3288-0260 FAX : 03-3288-1490
 E-mail : info@jyh.or.jp URL : http://www.jyh.or.jp

活動の概要

子どもたちが自分自身で旅の計画を立て、利用する交通機関や宿泊するユースホステルの手配をし、地域の自然・文化・人々にふれる旅（ホステリング）をする。

それが「子どもチャレンジホステリング」である。旅の中で発生する様々なトラブルを、リーダーの力を借りずに、自分たち自身の力や出会った人々の力を借りて解決することにより、「生きる力」を育むとともに、チームワークの大切さや社会におけるマナーを学ぶプログラム。

活動の内容

旅の計画作り (Plan)

時刻表や旅行のガイドブックを参考に、グループで話し合いながら旅の目的やコースや予算を決める。「海に行きたい!」「温泉に入りたい!」「じゃあ箱根を通っていいよ」「それじゃ海に行けないよ」と、なかなか意見がまとまらない。

計画が立ったら、ユースホステルに予約の電話をかけ、交通機関の手配をし、旅の準備をする。グループでの話し合いの中で、時として喧嘩をしながらも、子どもたちはチームワークを高めていく。

旅の実施 (Do)

いよいよ旅に出発。自分たちで決めた目的、コースにしたがって旅をする。旅に必要なお金の管理も自分たちで。安全管理のためグループごとにリーダーが同行する

が、「電車の時間に間に合わない!」「バスで行けるかな?」「あのおじさんに聞いてみよう!」と、道中でおこる様々なトラブルもリーダーの力を借りずに、自分たち自身の力や、出会った人々の力を借りて解決する。

地域の自然・文化・人々にふれながら旅をすることにより、子どもたちは新たな発見をくりかえし、成長していく。

ふりかえりとまとめ (Review)

旅の最終目的地にグループごとに集合。旅をグループでふりかえり、壁新聞に楽しかったこと、大変だったことなどをまとめていく。壁新聞を発表し、「ぼくたちは〇〇山に登ったよ」「眺めはよかった?」「うん!ハイキングに来ていた人たちとお弁当を食べたよ」と、旅の経験を全員で共有する。旅のふりかえりを通して子どもたちは旅の経験を、旅が終わった後にも残る「生きる力」に昇華していく。

成果と課題

自分たちの力で旅をやりとげたという自信が、プログラム開始時と比べて子どもたちを一回り大きくしている。開始時には引っ込み思案でなかなか自分の意見を言えなかった子どもが、終了時には積極的に発言できるようになっていたり、自分のやりたいことばかり主張していた子どもがみんなの意見を調整する役目をするようにな



ユースホステルの予約も自分で。「えっ、もう満室!？」

ったりと、様々な変化が子どもたちの中に見てとれた。特に中学校3年生から小学生4年生という異年齢でのグループ活動を通して、年長者は自然と年少者の面倒を見るようになり、また、年少者は年長者の意見を素直に聞くようになっていく様子が、顕著に見られた。

課題としては、リーダーは極力子どもたちに意見せずに、子どもたちの自由な発想、自主性・自律性を尊重するという趣旨のプログラムであるため、時として子どもたちの活動に放縦さが見られたことである。「リーダーが、どこまで・どこから口を出すか」というさじ加減は難しいが、リーダーにとってもいずれ自分が子どもを持ったときなどに有益な経験となるため、子どもたちの成長に効果的な支援ができるよう、ケーススタディなどリーダーの研修を行っていききたい。

団体の概要

青少年の野外旅行活動の推進を目的として、1951年に設立。全国330カ所のユースホステルネットワークを活用して、子どもたちをはじめ、一般、ファミリーなどを対象とした自然体験・社会体験活動を推進している。地域に密着しているというユースホステルの特性を活かし、地域の環境に応じた豊富なプログラムを展開して、子どもたちの「生きる力」の育成に取り組んでいる。

さんぽみちキャンプ

実施団体名 さんぽみち
連絡先 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学
 E-mail : sanpomichi21@hotmail.com
 URL : http://www.sunpomichi.com

活動の概要

子どもにとって身近な将来のモデルになりうる学生だからこそできることがあるのではないかとこの思いから、キャンプに興味を持つ学生が集まり、「出会い・経験・マジ感動」を合言葉に、不登校の児童・生徒を対象にした2泊3日のキャンプを実施した。

日常とは異なる環境の中で、豊かな体験活動の機会と場を提供し、仲間とふれあうことの楽しさ、自ら主体的に選択し行動することの喜びを体験させることを試みた。また、様々な年齢の他者との交流の中で、子どもが自らを見つめ、希望のある将来像を持つきっかけになることを期待して取り組んだ。

活動の内容

1日目 (3月26日)

—新しい人間関係を深めることのできる活動を中心に—

入所式、名札作りの後、エンカウンター要素を取り入れたゲームを複数実施した。夜はスタッフを交えて、子どもお話し会と保護者お話し会を実施した。

2日目 (3月27日)

—人間関係を深めることのできる活動を中心に—

午前中は魚釣り、ボートこぎ、ネイルアート、ビーズ細工、体育館遊び、室内ゲーム、野山の散策、お菓子作りなどの選択活動を実施した。午後からビンゴ付ウォークラリーを実施し、野外炊飯（お好み焼き）の後、夜の「さんぽまつ



ビンゴ付ウォークラリーでクイズに挑戦

り」ではポップコーン、ヨーヨー、おみくじ、バルーンアート、わたがし、輪投げ、ストラックアウトなど自分たちがやってみたい出店を準備してお店屋さんごっこを行った。保護者お話し会は、朝・昼・夜に開催し、小グループに分かれた意見交流会も行った。

3日目 (3月28日)

—思い出作りの活動を中心に—

宿泊施設周辺の巨大地図上に、絵や文章、作品で思い出に表現し、思い出制作とした。分かれの集い・退所式を行った。

フォローが必要だと思われる子どもに対しては、スタッフが1対1で子どもと行動して援助した。毎晩スタッフミーティングを行い、子ども達ひとりひとりの様子を報告し意見を交わす中で、子どもへの対応やスタッフの配置について検討した。

場所：岐阜県伊自良青少年自然の家
 参加者数：子ども参加者49名、大人参加者（保護者、キャンプ運

営協力者等）36名、外部指導者6名、学生スタッフ25名

成果と課題

学生自身の手でキャンプを作り上げられたことで、私たちにとって大きな自信となった。また、不登校について更に実感を伴って考えていく機会になったと思う。参加者には概ね好評を頂いたが、子どもの捉え方や対応がスタッフ間で一致していないことで混乱することもあったので、今後はキャンプを行う意義や取り組む姿勢について、もう一度話し合った上で企画を進めていく必要があると考える。

また、宮本正一教授（岐阜県教育委員会スクールカウンセラー・臨床心理士）を招き、不登校の子を持つ保護者のお話し会にも力を入れて取り組んだことで、不登校の子を持つ親、元不登校経験者、子どもと関わる学生というそれぞれの立場から思いを伝え合う貴重な場となったと思う。

団体の概要

岐阜大学サークル「さんぽみち」は、様々な教育問題を幅広い視点から考え、行動し、学びあうサークル。不登校、発達障害、精神障害、虐待などのテーマに関心を持って、それぞれが活動している。全体の活動としては月1回の勉強会、合宿、キャンプなどを行っている。

「すべての子どもに自然体験活動を」推進事業

実施団体名 静岡県キャンプ協会

連絡先 〒432-8021 静岡県浜松市佐鳴台3-49-22 静岡県キャンプ協会事務局

TEL : 053-448-4208 FAX : 053-448-4206

E-mail : camp-s@land.linkclub.or.jp URL : <http://www1.linkclub.or.jp/~camp-s/>

活動の概要

子どもたちの自然体験活動は、「生きる力」を身につけるためにとても重要であり、その機会を提供することはキャンプの指導者団体である本協会の責務と考え、健常児のための長期自然体験プログラムと、普段、自然に接する機会の少ない知的障害児のための自然体験キャンプを企画・実施し、子どものキャンプにおけるユニバーサルデザインのあり方を探った。

活動の内容

(1) 朝霧エコ・フロンティアキャンプ

9泊10日の全期間テント泊で全食自炊（野外炊事）活動を行い、毎日のプログラムを重視する自然生活体験キャンプを実施。最初の3日間は地域研究などの班別活動を中心に、次の3日間は洞穴探検やカヌーなどの選択プログラムを中心に活動を、最後の3日間は富士山中腹の大沢崩れまで歩く冒険



エコフロンティア富士山大沢崩れ



エコフロンティア本栖湖でカヌー

ハイキングと原生林でのビバークを主体にした冒険プログラムで構成し、豊かな大自然の中での多様で充実した活動を実施した。

(2) 知的障害児のための教育キャンプ「チャレンジキャンプ2003」

自閉傾向の強い子どもやてんかん発作を持つなどの知的障害の子どもたちに1対1で指導者が付き、1泊2日を文字どおり寝食をともにして過ごす中で、子どもが安心して自然の中で活動できる人間関係を作りあげ、自然観察（秋を探そう）、創作活動（楽器を作って演奏しよう）、自炊活動（カレーライスを作ろう）、チャレンジハイキング（森の大冒険）などに思い切って挑戦することができた。

成果と課題

エコ・フロンティアキャンプでは台風のためビバークを実施できなかったが、自然の美しさだけでなく厳しさも体験でき、「生きる力」の育成に大いに効果があった。

チャレンジキャンプでは、親から離れ、不慣れな人間関係での初めての場所、活動にもかかわらず、パニックも起こさず、発作もなく、全員が自然の中での活動を楽しむことができた。

課題としては、両事業ともにスタッフの資質向上のための事前研修の充実と、安全確保とプログラム開発のための十分な現地下見が不可欠であり、そのための予算確保が最大の課題といえる。

団体の概要

社団法人日本キャンプ協会の静岡県支部として、平成10年5月に設立。「すべての子どもに自然体験活動を」推進事業のほか、キャンプ・インストラクターの養成や長期キャンプ指導者の養成事業を実施するほか、大学や青少年教育施設、市町村教育委員会等への指導者の派遣活動などを行っている。

地域を学ぶ親と子どもの体験プロジェクト（みどりの学校）

実施団体名 勝田町子ども事業実行委員会
連絡先 〒707-0113 岡山県勝田郡勝田町真加部1616
 TEL：0868-77-1700 FAX：0868-77-1242

活動の概要

02年度より学校完全週5日制に伴い、土曜日の有効活用を目的に中学3年生以下の子どもと保護者を対象に、廃校になった小学校を会場として学校の授業にはない山や川での遊びや伝統的な遊びなど様々な自然体験活動を行っている。

活動の内容

農作業体験

昔ながらの手植え作業による田植え作業の体験と菜園づくりに挑戦、また、間伐材を利用した名札作り(学校用、菜園用)を行った。

素材を活かした物づくり体験

自分たちの旗やバンダナ、竹細工(昆虫づくり)や間伐材を利用した玩具作り、伝統工芸である木地細工(菓子器)作りを体験した。



田植えの様子



どんどの様子

キャンプ体験

1泊2日の野外キャンプを通じ、自然の素材(竹)を使った食器づくりや魚釣り(竿作りから餌取り)、つかみ取り等の川遊びの体験をした。また地域の民話を聞くなど地域文化を体験した。併せて蕎麦植えを体験した。

川遊び体験

ダムでの海洋体験(カヌー、ボート、カッターの試乗体験)を通して水との付き合い方、楽しみ方を伝えた。また町の産業を認識してもらうため、ぶどう狩りや牛舎見学を行った。

農作業体験

昔ながらの手作業(稲の刈取り、はぜ干し作業)と機械作業(バインダー、コンバイン)による稲刈り作業の体験と脱穀作業(千歯、足踏み等)を体験した。

林業体験

地場産業であった林業体験の一端として、炭焼き体験(窯だし作業から原木準備、窯入れ作業まで)を体験した。また、夏

に蒔いた蕎麦の実を収穫した。

田舎の運動会

蕎麦打ち体験と田舎ならではの運動会を体験した。

収穫祭と迎春準備

収穫したもち米を使って、杵でもちつき体験、正月用のしめ飾りやミニ門松づくりを体験した。

伝統文化・産業体験

伝統的風習である「とんど焼き」やシイタケのほだ木作り、みつまたを使っての和紙作り体験(紙すき)を行った。

成果と課題

様々な活動を通じて子ども達も交流ができ、貴重な体験の機会を提供できたと思われる。

また、過疎高齢化の進んだ地域での活動のため、多くの子どもたちの参加は地域の活性化の役割も期待できる。

成果がかたちとしてすぐ現れるものでもないが、体験活動が参加者にとって有意義なものになるよう、先を見込んだビジョンで取り組んでいかなければならない。

団体の概要

みどりの学校は、岡山県の北東部の東谷上地区の廃校になった小学校を活動の拠点として02年度から地域の自然を活かした体験活動を行っている

わくわくサイエンス

実施団体名 わくわくサイエンス実行委員会

連絡先 〒031-0001 青森県八戸市類家4丁目3-1 八戸市児童科学館内
TEL：0178-45-8131 FAX：0178-45-8132

活動の概要

科学に対する興味が薄れてきていると言われている昨今、子どもたちの科学に対する興味・関心を掘り起こし、科学を身近なものと感じることができる青少年と、その親の育成を図るため、実験や工作、遊技などの様々な体験活動を行った。

活動の内容

主に八戸市児童科学館を会場として、青少年の「科学する心」を育てるため、原則として、月1回、第4土曜日を「わくわくサイエンスの日」として、科学実験ショーや、アイデア実験・工作を開催した。

15年度は、最初に講師による科学実験ショー（「超低温の世界をのぞいてみよう」、「発泡スチロールをリサイクル」、「木が紙になる」の3項目）を実演した後、参加者に科学実験・工作を体験してもらった。

科学実験・工作は月ごとに内容を変えている。

4月「ふしぎ物体スライムを作ろう」

●様々な色のスライムや、磁石にくっつくスライムを作った。

5月「葉脈の標本を作ろう！」

●ヒラギなどの葉を材料として、葉脈の標本入りのしおりを作った。

6月「風船で動物を作ろう」

●マジックバルーンという細長い風船を使って、犬やキリン、トンボなどを作った。

7月「マイプラネタリウムを作ろう！」

●専用の台紙を使って、家庭で楽しめる簡易プラネタリウムを作った。

8月「みかんの皮で発泡スチロールをリサイクル」

●みかんの皮の成分「リモネン」を使って発泡スチロールを溶かした。

9月「スーパーボールを作ろう」

●いくつかの薬品を組み合わせ、ポンポン弾むスーパーボールを作った。

10月「いにしえの土笛オカリナを作ろう」

●テラコッタ粘土を使って、かわいいオカリナを作った。

11月「ウルトラマンバッジを作ろう」

●特殊な薬品を混合して、ウルトラマンや動物、乗り物のバッジを作った。

12月「ふしぎ物体スライムを作ろう」

●人気の「スライム」を、出張実演した。

1月「火を起こしてみよう」

●摩擦によって火がおこる様子を体験してもらった。

2月「紙ひもでへびを作る」

●紙ひもでへびを作った。

3月「いくつ見える一等星」

●専用の台紙で天球儀を作った。

成果と課題

実際の体験から得た知識や考え方は、ただ本を読んだり人から聞いたそれよりもはるかに身になっていると思われる。実際に「わくわくサイエンス」の活動を通して、参加した方々の反応からそれが感じられた。

課題としては、参加する方々に毎回新鮮な体験をしていただるように、常に新しい実験・工作の題材を探す必要がある。あわせて、より多くの方に参加していただるように、周知の方法を工夫しなければならないと考えている。



マイプラネタリウムを作ろう

団体の概要

主に八戸市内の青少年と子育て期にある保護者に、科学の「楽しさ」「面白さ」を体験してもらうことを目的として、平成9年に設立した。委員は、現役の学識経験者を主としている。

古代人のテクノロジー体験活動2003

実施団体名 CHIME友の会
連絡先 〒464-8602 愛知県名古屋市千種区不老町 名古屋大学年代測定総合研究センター内
 E-mail : chime@nendai.nagoya-u.ac.jp
 URL : <http://www.nendai.nagoya-u.ac.jp/ja/>

活動の概要

石器を初めて見た時、誰もが「鉄もない時代に、どのようにして硬い石を加工して、細い孔をあけたのだろうか」と不思議に思う。この科学の芽を大切に、次世代のユニークな発想や夢を育む一助となるように、石包丁とペンダントの製作活動を実施した。



「廊下も教室」廊下を使った実習の様子。(適当な実習室がありませんので、廊下を利用して活動を行っています。)

活動の内容

本活動は、古代の技術を忠実に体験するよりも、その基礎となる科学情報を自ら見出すことに重点を置いている。小学校5・6年生と中学生を対象にして、次の2日間のプログラムを企画した。実習は危険な作業を含んでいるため、多数の指導者を配置して、安全確保に努めた。(参加者43名、見学保護者7名、スタッフ15名)

(1) 鉱物と岩石の硬さ

映像を使って縄文時代と石を使った道具や装飾品を学習し、金属・岩石・鉱物の硬さ調べを行っ

た。実験では、擦り合わせると柔らかい方に傷が付くこと、物の硬さは多様であること、の認識が重要である。これが理解できると「細い棒の先に硬い鉱物を付けて孔をあける」という方法が簡単に導き出せる。

(2) 石に孔をあける実習

厚さ約5mmの石板の窪みに研磨剤をおいて、ハンドドリルに取り付けた竹箸を回して細い孔をあけた。ハンドドリルの使用で、子どもの技量差を小さくできる。また、学年ごとに窪みの深さを変えて、完成までの時間を概ね一定(45分程度)になるよう工夫した。

(3) 岩石のでき方

大学の専門科目に近い内容を小中学生にわかる用語で講義する。

(4) 包丁作りの実習

サヌカイトの石板から、リングの皮を剥くことができる包丁を作り上げる。単純に見える作業のなかに、研磨剤の粒度選択、磨き方、刃のつけ方など、工夫する事項を組み込んだ。この実習でも、材料の事前加工度を変えて、全員の作業時間を約2時間に調節した。

成果と課題

実際に体を使って体験することにより、子どもの科学的関心を高めることができた。高度な内容の講義も意外と好評であり、10通を超す質問メールや手紙が届いた。子どもが主体的に考えるようになったという保護者や担任の高い評価も寄せられた。

本活動は、回を重ねるたびに参加希望者が増加し、募集開始後数日で受入れ限度枠を越える申し込みが殺到するようになった。団体の運営能力に見合った活動に変更せざるを得ないのが現状である。



「包丁作成」サヌカイトを磨いて石の包丁を作る。(怪我をしないように手袋をして石を磨きます。)

団体の概要

名古屋地域の地質研究者を中心にして、次世代の科学的関心を育もうという主旨で出発した。現在、12月に石器製作と埴輪製作を交互に実施する本活動、7月に小中学生を対象にした岩石年代測定の体験活動(3日間:野外に出かけて採集した岩石から鉱物を分離し、子ども自身がCHIME法で年代測定)を行っている。

この夏、君も望遠鏡職人になろう！

実施団体名 和歌山星空再発見プロジェクト

連絡先 〒640-1366 和歌山県海草郡美里町松ヶ峯180 みさと天文台内
TEL：073-498-0305（みさと天文台内） FAX：073-498-0306（みさと天文台内）
URL：http://www.cosmo.kawabe.or.jp/wpro/wpro.htm

活動の概要

口径12.5センチ反射望遠鏡を鏡から磨き上げて完成させ、天体観測を行う講座。

和歌山県内天文関係者・施設の横のつながりを使って、科学的・技術的・教育的に質の高い天文工作教室を、夏休みを含め前後1ヶ月に亘り行った。

活動の内容

具体的には次の1～4の活動を行った。すべてに参加できることを望遠鏡製作の条件とした（最終的な製作は5組）。

(1)事前説明会（1日）

「基礎講座と大望遠鏡による観察（美里町みさと天文台）」

天体望遠鏡の原理の説明とガイダンス、大望遠鏡での構造の確認と観測：好天に恵まれ予定通り実施することができた。

(2)職人さんの仕事場見学（1日）

「反射鏡工房見学（新宮市内アストロハウスタサカ）」

職人さんの紹介、職人さんによる望遠鏡製作の解説（天体の話や昔の話を含む）、工房見学：暑い

中、みなさん頑張って参加。職人さんの超人的なこだわりや、手作り天文台に心から感心した。

(3)鏡磨き合宿（4日）

「鏡磨き合宿（美里町セミナーハウス未来塾）」

中心的活動。この活動のために設計した望遠鏡用の鏡を4日間かけて研磨：作業、測定の流れを繰り返す。夜は、ドブソニアン望遠鏡の見学や小望遠鏡での観望会、みさと天文台での火星観測（大接近直前）なども行った。作業は良いペースで進められたが、4日目までかかってなんとか全員作業完了。

(4)望遠鏡完成・観測会（1日）

「望遠鏡作成と観測実習（美里町みさと天文台）」

専門業者でメッキしてもらった鏡の受取り、組み立て調整、架台作り、観測：望遠鏡メーカーの方に直接指導をいただく。電動工具を使用しても意外と時間がかかった。夜になってやっと完成。5台のうち4台は問題なく雲間の月や火星も観測できたが、1台はなぜか焦点が出なかった。

成果と課題

目的は、“自分の手を動かして、時間をかけて本物に挑み、完成させて観測し、ものづくりの辛さや完成したときの充実感を実感していただく。望遠鏡工房の見学や職人さんによる直接の指導を通し、科学や技術に対する優れたセンスに直接触れ、その深さや素晴らしさを実感すると共に、物事や社会への主体的な関心



合宿中、みさと天文台で大接近の火星も観測

を呼び覚ます。”ということであったが、参加者に関してはおおむね達成できたと思われる。

簡単にかつ成果を追求する世の中の流れに対するアンチテーゼとしての講座でもあり、時間もお金も手間もかかるため、予想通り参加者は多くはなかった。その分、成果をある程度保障し、またサポート時の労力を現実的に抑えることができた。象徴的には、地域の先生方からの申込みもあったが、結局時間的制約からキャンセルになる一方で、遠方からこの講座のために前後泊までして参加される方もおられるなど、専門的な講座に起こりがちな二極化は避けられなかった。

主催者側としても、地域の人的・地理的特性を最大限活用したこのような中味の濃い講座は是非一度開催してみたかったものであり、実現できたこと自体たいへん感慨深かった。今後は、この活動を通して得た人的ネットワークやノウハウを活用して、人材育成や裾野の拡大を目指した活動ができるように考えてゆきたい。



鏡磨き合宿は和やかな雰囲気

団体の概要

和歌山県には星空の美しさを活かした公開天文台が多数ある。各施設の研究員による合同勉強会を平成11年度以来一部組織化し、地域の天文に関わる歴史的な資料の整理と、今日的な天文研究・教育活動の両方を行ってきている。県内の天文関係の文化を広く一般に知っていただき、星空を再発見していただくことを目的とする。

岡山大学サイエンス・スクール2003

実施団体名 岡山大学サイエンス・スクール

連絡先 〒700-8530 岡山県岡山市津島中 3-1-1 岡山大学工学部電気電子工学科内
TEL/FAX : 086-251-8138 E-mail : t_nagaya@cc.okayama-u.ac.jp
URL : <http://ed-www.ed.okayama-u.ac.jp/~rika/scienceschool/index.html>

活動の概要

スタッフ達が日頃の研究活動で感じている自然科学を探究する楽しさを子どもたちに伝えたいと思い、中学生を対象とした一日完結型の四つの活動を実施した。どの活動も中学生にとってやや難しいテーマであったが、実験と講義によって各分野の専門家たちが分かりやすく指導するように心掛けた。

単に実験を体験するだけでなく、その背景となる科学を楽しく学ぶことができる活動を目指した。

活動の内容

(1) クリスタルの不思議

結晶育成の実験と、その原理についての講義を実施した。結晶育成では、紫外線を当てると蛍光を発する食塩の結晶、雪の結晶、ビスマスの結晶、ミョウバンの結晶を作製した。

また、目に見えない原子の周期的配置を体験するために、発泡スチロールの上に周期的に立てた鉄棒に音

波を当てて、方向によって音の大きさが変わることを経験した。

(2) 液晶の不思議

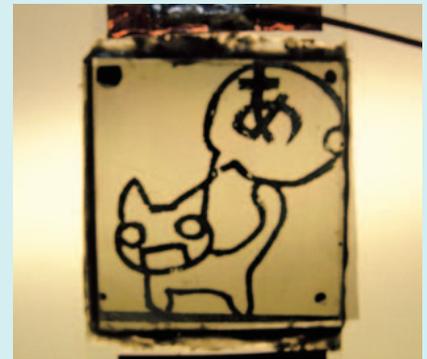
液晶ディスプレイと液晶温度計を作製して、液晶の性質を体験的に学んだ。参加者自らがデザインした絵柄を使って、世界に一つしかない液晶ディスプレイを作製した。また、液晶ディスプレイの動作原理や光の性質についての講義を実施した。

(3) 低温の不思議

液体窒素を使ったバナナや生花の冷凍実験、ガスの液化・固化実験、電気抵抗の温度変化の実験などにより、低温（約 -200°C ）での興味深い現象を観察し、それらに関連する講義を実施した。空気中の酸素を液化して作った液体酸素が淡青色の液体であり、磁石に引き寄せられることを観察した。また、岡山大学低温センターを見学した。

(4) 生体高分子の不思議

細胞膜上に存在する糖鎖に結合するタンパク質（レクチン）をナタ豆



自作したオリジナルの液晶ディスプレイ

から調製する実験とレクチンを用いて血液型を判定する実験を行った。

また、タンパク質を精製・分離する方法の原理、糖鎖の生体内での役割等についての講義を実施した。さらに、身近にある「濃縮・還元ジュース」の意味を化学的に理解するために、スクロースから生成した転化糖が強い甘みを呈することを体験した。

成果と課題

各活動で実施したアンケートによると、大学でしかできない高度な内容の実験と講義が体験できたことが好評であったので、研究者スタッフの“科学する心”を参加者に感じ取ってもらえたと信じている。

一日完結型の活動は、参加しやすい反面、時間を必要とする実験ができない短所がある。特に、生物系の実験はこの制約が大きいので、2004年度の生物系の活動は、連続した2日間で実施するように計画している。



低温センター見学（液体ヘリウム製造装置）

団体の概要

児童生徒の理科離れを危惧する岡山大学教員有志で構成している。平成12年度から、中・高生を対象にした科学実験プログラムを実施している（上記のURLを参照）。研究者スタッフが感じている「科学の楽しさ」を子どもたちに伝えたいと願っている。

みんなであそぼう！ 科学の世界

実施団体名 特定非営利活動法人 岡山市子どもセンター
連絡先 〒700-0903 岡山県岡山市幸町10-9 旧出石小学校
 TEL：086-234-7531 FAX：086-234-7532
 E-mail：kodomo-npo@mx91.tiki.ne.jp URL：http://ww91.tiki.ne.jp/~kodomo-npo/

活動の概要

身近な材料を使った科学実験のコーナーを21ブースづくり、来場者がそれらをまわりながら、実際に体験し、科学に親しみ、あそび、中高生をはじめとするボランティアと触れ合いながら交流した。

活動の内容

(1) ボランティア養成講座

ボランティアスタッフの裾野を広げるため、6月に市内3ヶ所の公民館で実施した。ボランティアスタッフが、事前に身近な材料を使っての科学実験を経験し、様々な科学現象に触れ、科学のふしぎさやおもしろさを体験することで、当日の参加者への適切な指導ができるよう講習会を行った。

受講者自身も、地域で事前実験を行うことで、人と人との触れ合いやコミュニケーションづくりの大切さを感じ、ボランティアスタッフとしての自覚ができ、技術的にも意識的にも力量が増した。

(2) みんなであそぼう！ 科学の世界

8月27日に市内中心部に位置する廃校になった旧小学校の体育館と校庭を使って実施した。

身近な材料を使っての科学実験を中心に21ブース用意することで、様々な科学現象に触れる機会を提供し、参加者は科学のふしぎさやおもしろさを体験できた。近隣の中学・高校にお願いしてボランティアを呼びかけ、参加する子どもたちに近い年齢のボランティアを集めたり、高齢者を含む幅広い年齢層で対応したりするよう心がけ、世代を超えた交流の場とした。ハラハラドキドキする感動体験を親子や友だち同士、中高生を含む多くのボランティアと一緒に体験・共感することで、コミュニケーションが広がった。

当日は、県内の科学の先生を含むボランティア150名が、500名を越える参加者を迎えた。



びっくりひとりでつぶれた

成果と課題

科学や理科好きの子どもを育成するには、科学に対する興味、関心と呼びおこすことが大切である。この事業は、自分の手で触れて、見て、聞いて、科学の楽しさを身をもって体験することができた。また身近な材料を使用するので、家庭においても繰り返し試みる事が可能で、子どもの探究心を高め、科学や理科好きな子どもの育成につなげることができた。ボランティアスタッフには、中学生・高校生・大学生などを含む多くの市民に依頼したことで、科学に関心を持つ人の裾野を広げることができた。また、参加者は様々な年齢層のボランティアと触れ合うことで、コミュニケーションが広がった。

この事業は実際に現場で体験してもらうことが重要で、そのためには子どもが参加しやすい場所を選定し開催することが必要である。また、岡山市の多くの子どもたちにその機会を提供するためには、継続的にこの事業を実施することが今後の課題である。



圧力は強い ブロック上げ

団体の概要

子どもに対して、子どもの社会参画の機会の拡充を図るとともに、子ども劇場をはじめとする子どもに関する諸団体に対して、連絡、交流、支援等の事業を行い、子どもの豊かな成長に寄与することを目的とする。主に遊び体験や文化体験事業を中心に子育て支援や子どもの居場所作り等多彩な活動を展開している。

まほろばの郷・ふれあい交流体験活動

実施団体名 東和町教育を高める町民運動推進委員会
連絡先 〒028-0115 岩手県和賀郡東和町安俵6区53番地
 TEL：0198-42-3255 FAX：0198-42-3947

活動の概要

東和町小山田地区は、豊かな自然に包まれた田園地帯であり、水田を中心とした農業が営まれている。農業水路等は農業生産のためだけでなく、魚類をはじめとする多様な生物の生息場所としても重要なものであり、農業・農村の持つ多面的機能の1つともなっている。

本調査を行うことにより、川や農業水路等に生息する生物種や分布状況等の把握、生物保全のためによりよい施設整備のあり方の検討及び生態系保全、環境教育等の地域活動との連携を深めていく取り組みの推進を図った。

また、子どもたちが自分の住む郷土の自然に触れ、生活と環境について学び、農業水路等施設のもつ多面的機能の発揮に対する理解を深めていく活動を実施した。

活動の内容

東和町小山田地区では、地区内を流れる川や農業用水路の水質と、そこに生息する水生生物を調査する自然観察会を実施した。参加した小学生の親子が、地域の生活と環境との関係について学習した。

環境教育と地域の連携を図ろうと、東和町教育を高める町民運動推進委員会、小山田地区教育振興運動実践協議会が実施したもので、地元小山田小学校の児童、保護者ら130人が参加し、親子のふれあいを大切にしながら、郷土の自然を見つめなおした。

観察会では、地区内を流れる添

市川や農業用水路の9ヶ所に分かれて調査を実施した。各地点で魚や水生昆虫などの生物を捕獲したほか、水素イオン濃度（PH）などを測定して川の水質を調べた。

調査地点では、小学生たちが石をひっくり返すなどして水生生物を探し、場所によっては投げ網を使って、メダカ、ドジョウのほか、ヤマメ、ハヤなどの魚を捕獲した。それぞれに数や種類などを記録し、川や水路に生息する生物から水質との関係について学習した。

成果と課題

子どもたちの観察記録から、郷土の川、土地に対する興味・関心を広げる言葉や記録が多々見られた。このことから、「小山田」という土地を愛する心情の醸成を十分に図ることができた。

家族そろって同じ目的で行動することは、家族の絆を深めるために大きな意義があった。9ヶ所の



なんの虫かな？ いるいるいるぞ

調査場所は、それぞれの責任感を高めるうえで効果的であった。

実際に川に入り、水に浸り、虫に触り、かんに指をはさまれ、体を通して多くのことを体験した。調査を通じて、懸命に結果や記録をまとめる姿を見て、子どもたちが多くのことを学んだことが活動を通してわかった。

以上学んだことを、今後の郷土の自然、環境保全のために各自及び地域でどのように行動に結び付け、実践していくかが課題である。



こっちもいそうだ、みんな行こう！

団体の概要

本会は、児童・生徒、教師、家庭、教育行政、地域社会が一体となり、「環境福祉活動」「読書活動」「ふれあい活動」等の活動を通して、本町の教育を振興し、人間性豊かな子どもを育てる運動を推進している。

荒町ふれあい塾

実施団体名 荒町ふれあい塾推進委員会

連絡先 〒995-0032 山形県村山市楯岡荒町一丁目1の21号

TEL/FAX：0237-53-2307

E-mail：t-tsuchi@plum.plala.or.jp URL：http://www7.plala.or.jp/aramachi-agumi/

活動の概要

「地域の子どもは地域で育てる」を原点として、「地域の大人」が「地域の子ども」のために自分のできることを無理なく教える活動を定期的に開催することで、異世代間の交流はもとより、高齢者においては生き甲斐づくりの視点に立った活動を展開し、地域全体に「ふれあいと学びの場」を設けるための創作活動や交流活動を年間15回実施した。

活動の内容

開塾3年目を迎えた平成15年度は事務局が主に企画する通常の活動メニュー、加えて子どもたちのアイデアを生かした塾生オリジナルメニュー、さらにより他の地域への活動啓発も含めて地域外からも参加を可能にした広域募集メニューなどを実施した。また、指導者のすそ野を広げる活動を推進するための外部講師招聘メニューや総合活動メニュー（複数の活動を同時に開催する子ども活動夏祭り風イベント）を展開することで、子ども自身が主体的に活動に参加できる内容づくり、そして支援する環境づくりにポイントをおいて展開してきた。

(1) 事務局企画メニュー

「笹巻きづくりと柏餅づくり」
「しめ縄づくり」「年越しそばづくり」
「恒例ギョウザづくり」
「めざせ卓球名人」「市雪祭り参加：雪像づくり」

地域の方を先生として、荒町に住まう子どもを中心に活動してきた。

毎年恒例活動となっている内容もあり、先生役の地域の方も毎年工夫をした取り組みを仕組んでくれるようになってきている。

(2) 塾生限定オリジナルメニュー

「親子で魚釣り」「クリスマスケーキづくり」

塾生（活動内容の企画に参画）として申し込んできた子どもを中心に、特別なメニューを開催した。今年は塾生の保護者にも声掛けして、親子活動として活動した。

(3) 広域参加可能メニュー

「オリジナルけん玉づくり」
「ふれあい映画館」「似顔絵を描こう」「手打ちうどんづくり」

地域で子どもを育てる取り組みを、より多くの周辺地域の方々にも知っていただくために、荒町の子ども以外でも参加可能な広域メニューを4回実施し、地区外からも多くの子どもが参加した。

(4) 外部講師招聘メニュー

「手品師になってみよう」「アートバルーンづくり」

子どもと大人が一緒に学ぶ機会を設定することで、親世代にも楽しさを味わわせ、指導者（協力者）として関わろうとする意識を高める活動を実施した。

(5) 総合活動メニュー

「ふれあい屋台村」



第1回「笹巻き・柏餅づくり」



第13回「雪像づくりをしよう」

ふれあい塾夏祭りとして開催。「塾生企画屋台」や「地域の大人設置屋台」など、子どもと大人がふれあう場づくりの活動を実施した。屋台村来村者は400名程度と大変盛況であった。

成果と課題

(成果)

様々な体験活動や創作活動を通して、普段では体験できない貴重な活動をすることができた。また、地域の大人と活動を共にすることで、「あいさつ」や「活動のマナー」など、『地域における効果的な教育』の形が出来つつある。さらに、縦割りの異年齢交流を通して、地域の子供たちの結束が強固となり、「荒町」に住まうことの良さ、「郷土愛的な心情」も育ってきた。

(課題)

- 指導者育成プログラムの事業（外部講師を招聘事業）を実施し、自らも指導者側に関わろうとする活動を計画する。
- 広域メニューの充実を図り、同様の活動が他地域でも実施できるような情報の提供及び活動の支援をしていきたい。

団体の概要

「荒町ふれあい塾」は、平成13年5月にスタートし、一地域の子どもは地域で育てる一が目的。毎月第二・第四土曜日に公民館に集まり、地域のお父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんが先生（講師）となり、製作を伴う体験メニューを主に三世代で楽しみながら活動している。

わくわく放課後クラブ交流体験活動スペシャル2003

実施団体名 わくわく放課後クラブ
連絡先 〒516-8501 三重県度会郡御園村大字長屋1221
 TEL：0596-22-0258 FAX：0596-22-0433

活動の概要

「集団遊び・運動遊びや自然とのふれあいが心を育てる」という観点から、様々な自然体験活動や伝承体験活動を、日本一の清流に選ばれた「宮川」の河川敷や村内の施設をフィールドに展開することにより、子どもたちの健全な心身の育成を図る。また、地域の人たちや友達と交流することにより、自主性や協調性を育み、豊かな人間関係づくりを図るとともに、地域における体験活動の裾野を広げる取り組みを行った。

活動の内容

小学生を対象として、地域の人たちや友達との交流が充分図れるようなプログラムを工夫しながら、月1回（土曜日中心）程度野外での自然体験活動や生活体験活動を実施した。

☆わくわく放課後クラブ交流体験活動夏のスペシャル

○さつまいも栽培体験会

村内の畑を借りて、参加者全員で畑を耕し、畝をつくり、さつまいもを植えた。

土に触れたり、さつまいもの苗を植えたりすることができた。

○自然観察会

ラブリバー公園内にいる昆虫を採集し、図鑑で調べたり、スケッチしたりした。

その後、講師の先生に「人間と昆虫との関わり」について話をしてもらった。

○水生生物観察会

宮川の浅瀬や水際に生息する水

生生物を採取し観察した後、パックテストを使って水質検査を行い、宮川の環境について話し合った。

☆わくわく放課後クラブ交流体験活動秋のスペシャル

○ネイチャーゲーム

五感で自然を感じ、心と体で直接自然を体験できるようなゲームを行った。ゲームを通して、自然を見つめ直したり、自然との接し方を考えたりする機会を持つことが出来た。

○さつまいも収穫体験会・やさいも大会

6月に植え、ずっと世話を続けてきたさつまいもを収穫し、更にそれを焼きいもにし、参加者全員で話をしながら楽しく味わった。また、余ったさつまいもを家に持ち帰り家族で味わった。

○リースづくり

どんぐりやつるなど自然のものを使って、クリスマスリースを作った。地域のボランティアの人たちの協力を得ながら世界に一つの自分だけの作品ができた。

☆わくわく放課後クラブ交流体験活動冬のスペシャル

○凧づくり

指導者の先生により、「凧」の歴史や種類などについて話をしてもらった後、年齢や興味に応じて六角凧やダイヤ凧を作った。

○凧揚げ大会

12月に作ったオリジナル凧をみんなで揚げた。いろいろなデザインが凧が空に舞い上がった。指導者の先生の立派な昆虫



自然観察会—自然いっぱい、昆虫いっぱい—

凧なども揚げてもらった。その後参加者全員でもちを焼いて食べた。

○アートバルーン・フラワーアレンジメント

「アートバルーン」では指導者に教えてもらいながら犬やねずみなどの動物や花を作った。「フラワーアレンジメント」では自分の気に入った草花を使って花籠を作った。多くの子どもたちが初挑戦した。

成果と課題

自然に触れる・自然と遊ぶ体験をすることによって、自然のもつ素晴らしさや怖さを直接感じることができた。また、自然がたくさんある地域のよさを再認識したり、自然を大切にしようという意識も芽生えてきたように思う。地域の人たちと一緒に活動したり、様々な仲間と交流したりすることにより、自主性・協調性も育ってきたように思う。

今後、活動内容がマンネリ化しないように工夫したり、子どもたちがよりダイレクトに自然体験ができるような活動・心の中に焼きつけられるような活動を展開していきたい。

団体の概要

わくわく放課後クラブは、「学校週五日制の定着」及び「子どもたちの体力低下・自然体験の不足」などを視野に入れ、平成13年度から週2回定期的に村内の体育施設を利用して運動遊びを行ったり、月1回程度自然体験活動を行ったりしている。これらの活動を通してバランスのとれた心身の育成に力を注いでいる。

中学生・高校生自身による「地域での自主的体験活動」のための組織作り

実施団体名 社団法人 山口県子ども会連合会
連絡先 TEL：083-928-0007 FAX：083-928-1810
 E-mail：kodomo35@stellar.meon.ne.jp

活動の概要

自らの問題意識と目標を中学生・高校生年齢の若者が掲げ、学校教育の位置づけではない、地域での自律的な幅広い活動を行うための自分たちの組織作りを行い実践することをめざした。

中学生・高校生全員が参加し、地域社会の一員としての存在感を持ち、自信を持って成長し、生きいきとした地域づくりにもつながるものと期待している。

活動の内容

プログラムは年間を通じて行い、計画策定・啓発・実施組織化・活動実施によってすすめる「組織作り」と、実施する「活動」が共に体験活動となるが、何をするかということよりも中学生・高校生自身が準備を進める「過程」が活動そのものであり重要である。

(1) 企画委員会の設置、計画策定

中学生又は高校生を中心に構成し、計画を立てる。

(2) 啓 発

中学生・高校生と親・地域の人の理解を得る。



保育所で読みかせなどの体験活動（豊北町）



子どもたちの創作活動の運営ボランティア（豊田町）

(3) 組織化

中学生・高校生によるメンバーの充実を図る。

(4) 活動化

地域住民として意識を高めるための様々な体験活動を行う。

岩国市：（錦帯橋一帯の清掃活動）

大畠町：（大畠町まつりの子どもみこし運営）

周南市（鹿野）：（子ども行事の運営ボランティア）昔の遊びフェスタ、キャンプ

豊田町：（子どもの行事の運営ボランティア）サマーキャンプ、カヌー教室、創作活動

秋芳町：（公共施設事業のサポート）キャンプ、ハイキング

美祢市：（子どもの行事の運営ボランティア）球技大会、クリスマス会

豊北町：（保育所での体験活動）清掃・遊び・排泄・おやつ・着替え等の手伝い

成果と課題

地域社会の一員としての存在感が薄い中学生・高校生年齢の者が、自分たちだけで構成し、地域での幅広い体験活動を自律的に行うための組織作りを地域主導で進めることは、あまり例がなく、まだ関係者の理解を深めなければならない。

そうした中幸いにも、子ども会関係者や教員そして中高校生自身の理解を得ながら、徐々に活動が評価され始めた。

しかし、組織作りと活動に関わる中高校生は、全体的には、まだまだ少数で、さらに多くの参画を得るために、中高校生自身の一層の奮起と大人の理解を得ていく必要がある。

「組織作り」そのものが重要な体験活動であり、今後、輪を広げるための地道で地味な活動が必要と思われる。

団体の概要

「仲間と共に生きる力（対人関係能力）」「柔軟な思考力（とらわれない考え）」「乗り越える力（問題解決能力）」を持った“しなやかな子ども”の育成を『山口県子ども会 長期構想』の一つのモデルとして掲げて、幼児から高校生までの「育ち」を支援する組織として様々な活動をすすめている。

いきいきひじっ子育成事業

実施団体名 いきいきひじっ子育成委員会
連絡先 〒879-1506 大分県速見郡日出町3891-2
 FAX : 0977-72-8680
 E-mail : h360@town.hiji.oita.jp

活動の概要

長い夏休みや冬休み、子ども達が活動する場、受入の場が地域に必要なだと考えた。子ども達に休み中の活動のひとつとして、学校や家庭で日頃体験できないような、様々な活動の場を“夏休み子ども教室”“冬休み子ども教室”というかたちで提供した。内容は主に「ものづくり」の教室と「体験活動」の教室に分けられ、夏休み、冬休み合わせて、総数16の教室を開催した。

活動の内容

下記の教室を実施した。

	開催回数	参加数
●手話教室	3	16
●漁業体験教室	1	20
●農業体験教室	1	18
●押花アート	1	27
●ピザ作り①	1	27
●ピザ作り②	1	28
●大正琴	8	8
●フラダンス	4	4
●とうげい①	3	26
●とうげい②	3	11

●れきし教室	1	27
●茶道	4	23
●ケーキ①	1	28
●ケーキ②	1	29
●和紙人形	1	7
●木工大工	1	18
16教室	35回	317人

受講者の募集には、町内の小学校に主旨を説明し、協力をいただいた。全児童（1,650人程）に募集チラシを配布した。（7月、12月）定員は多く設定し、多くの子どもが参加できるように配慮した。

漁業体験教室では地域の漁協の方々に、農業体験教室では農家の方々にご指導をいただいたほか、他のほとんどの教室が、町内の公民館を利用されている各種サークルの方々に、ボランティアでご指導いただいた。

16の教室の中には1回のみ実施の教室が多く、短時間での活動が主となったが、参加した子どもは年齢や性別の異なる、他の学校の子ども、また日頃面識のない地域の大人の方々と交流を図ることができた。

全ての教室において、みんなで



ピザパイの生地づくり…ピザ作り教室より

始まりの挨拶や、終了時点での指導者への感謝のお礼のことばなど基本的なマナーを守らせるように努めた。

成果と課題

ものづくりを楽しんだり、初めてのことにチャレンジするなど、みんなでひとつのことに取り組むことで、学校、年齢の異なる子ども達の中に、友達の輪が広がり、また指導してくれる年長者への尊敬の気持ちを持つようになった。

ものがあふれた日常ではあるが、今後はさらに、子ども達がものづくりの活動を経験することで、日頃使用するもの、日々口にする食糧などの全てが、多くの人々の苦勞によって作り出されたことを認識し、感謝するようになってほしい。

また今後、この子ども教室を続けるにあたり、教室に参加した子ども達が何を望んでいるか、満足しているかなど、子ども達の意見もフィードバックさせ、活動プログラムに活かして行きたい。教室を提供する側の自己満足に終わることのないように努めたい。



作品をもってみんなでパチリ…押花アート教室より

団体の概要

いきいきひじっ子育成委員会は、「学校外活動を推進する。」「地域のリーダーとなる子どもを育成する。」「子どもの協調性・連帯感を育てる。」という3つのテーマの下に事業を行っている。記載の子ども教室のほか、保護者を対象にした、講演会などを開催している。

まくらが文庫

実施団体名 まくらが文庫
連絡先 〒306-0038 茨城県古河市長谷町38番18号古河市役所内
TEL：0280-22-5111内線1032

活動の概要

「本が好きな子どもにしたい。」
「子どもといっしょに本が読みたい。」という母親の願いが今の「読み聞かせ会」の活動に発展した。子どもたちは本当は本好きなのである。しかし、そのきっかけが見つけれない。そんな子に本の楽しさ、おもしろさを知ってもらおうよう積極的にかかわっている。子どもと向き合って絵本を読んだり、少人数のグループで読み聞かせやお話しをするなど、工夫をしながら会を運営している。

活動の内容

児童を対象に月4回、毎週土曜日午前中、公民館図書室で活動している。ボランティア14人を4班に編成し、第1週は古河市の昔話し、第2週は絵本の読み聞かせと映画会、第3週は名作童話を中心に、第4週は絵本の読み聞かせと昔の遊び（伝承遊び）、季節にちなんだ行事を実施している（七夕



エプロンシアターを鑑賞する子どもたち

まつり、お正月、節分、ひな祭りなど)。また、近隣地域の読み聞かせグループを講師に招き、パネルシアターや絵本の読み聞かせを実施した。

古河市の昔話しを題材に紙芝居づくりを行っている。紙芝居を通じ、ふるさと古河の歴史を学び、自分の住む町に関心を持つ子どもを育てることを目標にしている。読み聞かせ会終了後、公民館図書室に立ち寄り、親子で本を見たり、

貸し出しサービスを利用する子どもたちが増加している。

放課後児童クラブが公民館を利用する木曜日の午後、要請により、小学校1年生を対象に絵本の読み聞かせを実施した。

活動の例 平成15年6月の行事
エプロンシアター「おおきなかぶ」
同 7月の行事 古河の昔話「御所沼の鳴かすの蛙」

成果と課題

毎回20名～30名の参加があり、子どもたちの読書量は増加している。帰りには、必ず図書室に立ち寄り、本を借りる子どもの姿が見受けられるなどの成果があった。

今後は保育園などに呼びかけ、参加者拡大を図るとともに県立図書館主催の研修会に参加し、会員の資質の向上を図っていきたい。また、ふるさと古河の昔話しを掘りおこしのための紙芝居づくりも継続していきたい。



エプロンシアター「大きなかぶ」を鑑賞する子どもたち

団体の概要

平成2年4月、4人の母親が発起人となり、古河第四小学校前の中田公民館で「読み聞かせ」活動を始めた。現在は会員14名で組織、会員を4班に分け、年間計画に基づき班ごとに活動を進めている。「読み聞かせ」が主体であるが、映画会、昔の遊び、季節の行事の時は他の地域からの参加もある。近隣のグループとの交流も活発に行っている。学校、公民館、放課後学童クラブと連携の下、活動を進めている。

2003年夏・絵本展—科学の本のたのしみ

実施団体名 東久留米地域文庫親子読書連絡会
連絡先 〒162-0828 東京都新宿区袋町6
 TEL：03-3268-1303 FAX：03-3268-1196
 URL：http://www.jbpa.or.jp

活動の概要

例年、テーマをもった絵本展を開催し、子どもの読書の窓口を広げる事業にとりくんでいる。2003年は「科学の本」をテーマに並行事業として、

- 講演会（1回）
- 科学の本の読み聞かせと小さな実験を組み合わせた読み聞かせ会（14回）
- ちいさな工作（ぶんぶんごま・ピンホールカメラ・ぴょんぴょんがえる・テトリス）
- おもしろ科学クイズ
- 発見ボード

を開設し、科学の本との出会いを育み、子どもの読書の多様な広がり支援する。

活動の内容

講演会「たのしい科学との出会い」ボ
 ストン科学博物館講師 土佐幸子氏

1. 自分で考える大切さ
2. アメリカ事情の紹介
3. 子どもの「なぜ？」に答えよう
4. 「AIR is ALL AROUND YOU」を読む
5. 「AIR is ALL AROUND YOU」をつかってミニ実験
6. アメリカの絵本の紹介

幼児の子育て中の方の参加もしやすくするために、保育室を用意した。講演会には、小学生の参加もあり、募集人員を上回る盛況であった。

絵本展開催並行事業

7月18日

【小さな工作】ぶんぶんごま

【読み聞かせ会】『くんちゃんにじ』『ぼとんぼとはなんのおと』子ども5、大人2

【小さな実験教室と読み聞かせ】ゴムの実験・読んだ本『ゴム』子ども27名

7月19日

【小さな工作】ぴょんぴょんがえる

【読み聞かせ会】『わゴムはどのくらいのびるかしら』『だるまちゃんとかみなりちゃん』子ども12名・大人5名

【読み聞かせ会】『いろいろねこだんめんず』『いろいろへんないろのはじまり』子ども11名・大人7名

7月20日

【小さな工作】ぶんぶんごま

【小さな実験教室と読み聞かせ】知恵のあつまりパソコン・読んだ本『分解図鑑・パソコン』

午前子ども9名、午後子ども15名

7月23日

【小さな工作】ぴょんぴょんがえる

【小さな実験教室と読み聞かせ】音を知ろう・読んだ本『音をつくろう』

午前子ども29名、午後子ども24名

7月24日

【小さな工作】ピンホールカメラ

【小さな実験教室と読み聞かせ】繊維について・読んだ本『わた』

午前子ども30名、午後子ども28名

7月25日

【小さな工作】ぶんぶんごま・ぴょんぴょんがえる

【小さな実験教室と読み聞かせ】虹あそび・読んだ本『にじ』午前子ども31名、午後子ども36名

7月26日

【小さな工作】ぴょんぴょんがえる・ピンホールカメラ

【読み聞かせ会】『いろいろねこ』『スーホのしろいうま』子ども10名、大人5名

【読み聞かせ会】『あおくとときいろちゃん』『たんじょうじどうしゃ』子ども14名、大人5名

その他【おもしろ科学クイズ】【発見ボード】を常設

総来場者数900名余



繊維について「わた」

成果と課題

読書の分野においては従来科学あそびという取り組みがあったが、読書資料との連携において関係の意識を高め、読書から入る科学といった視点を提案した。また、科学実験教室等、従来の体験事業としてのプログラムに、子どもの日常生活の中に持ちかえっての関係を構築でき、繰り返し実験を楽しんだり、創意工夫を加えて思考を深めたりできる、読書との双方向性を提示した。科学にあまり親しみを持っていない人たちにも科学と読書の出会いを広く用意した。プログラムの多くに、予想参加人員を上回る参加があり、好評であった。科学教育関係団体から講師をお招きしての取り組みであったので、読書関係団体と科学教育関係団体の人的交流や連携が進んだ。このことから、図書館と科学館、博物館が有機的につながっていく可能性についても考えさせられた。

読書のおもしろさ、科学のおもしろさも手渡してくれる「人」がいれば、子どもたちはいきいきと取り組んでいけるという手応えがあった。

継続的に、また発展的に子どもの読書活動を支える環境を用意しつづけるために、人材と資金の確保が必要である。

団体の概要

東久留米市内の文庫活動をしている団体の、学習や情報交換をおこなう連絡会。1972年設立。子どもの読書支援、お話し会、学校図書館への支援活動、子どもの読書資料研究等の活動に日常的に取り組む他、夏の絵本展、春の文庫まつり、など広く一般に子どもの読書と文化への理解を深める活動をおこなっている。

大阪子ども読書活動支援事業「子どもゆめプラン」(ステージ3)

実施団体名 大阪子ども読書活動支援事業実行委員会
連絡先 〒577-0011 東大阪市荒本北57-3 大阪府立中央図書館内
 TEL：06-6745-0170 FAX：06-6745-0262

活動の概要

- (1) 子どもたちに本を読む楽しさを伝えるための「おはなしボランティア養成講座」入門編・ステップアップ編。
- (2) 障害児を対象にした「おいでよおはなしの森へ～共生社会をめざして～」、読書振興普及活動の一環として実施した。
- (3) 「ようこそ絵本の世界へ」と
- (4) 「読書フォーラム」は原画展や読書感想画展、読書相談・読み聞かせ講座も併せて開催。取り組み全体をとおして保護者、教師、ボランティア等、多様な層に読書の魅力をアピールした。

活動の内容

- (1) 平成13年以来、府内12箇所でおはなしボランティア養成講座・入門編を実施してきた。どこも募集開始後短時間で定員に達してしまい、読書活動推進の熱気の高まりを感じている。受講生は受講後も自主的な勉強会を続け、図書館や公民館でボランティア活動に参加する人が多く、本実行委員会の活動の支え役にもなっている。一定のスキルをもった指導者の養成に向けてステップアップ編も開講した。
- (2) 絵本の読み聞かせやストーリーテリングに加えて、「音」等をテーマにした科学遊びを取り入れた。科学の面白さを知ってもらい、障害児の読書

- の幅をひろげることができた。
- (3) 郷土出身の絵本作家・末崎茂樹氏の原画展、講演会、ワークショップ「とびだす絵本作りにトライ！」の開催により、大人・子ども双方に絵本への興味・関心を喚起した。
 - (4) ヤングアダルトを対象にした取り組みを初めて実施した。朗読コンサートでは、言葉のもつ新たな可能性を広げ、携帯メール世代にも言葉の面白さを気づかせて好評。記念講演では児童文学作家・たつみや章氏に「母国文化に気づく」ことのすばらしさと、書くことへの熱い思いを語っていただいた。青少年の読書をテーマにしたシンポジウムではヤングアダルトを取り巻く学校と公立図書館との連携の必要性を実感させられた。また、小冊子「おもしろい本さ・

が・そ！」を作成・配布したが、中高生にも、青少年に関わる多くの指導者にも好評で活用されている。

成果と課題

四つの取り組みを通じて、「草の根」の活動希望者を掘り起こし、図書館・公民館や学校等との連携も深められ、多くのボランティアをも巻き込んで、府内全域に子ども読書推進活動を展開していくことができた。

また、ボランティアネットワークの構築も順調に進み、活動の支え役として事業推進の力となっている。

今後はこれらの活動をさらに活性化させ、定着させるとともに、さらに新たな切り口でのアプローチを図り、新たなモデルプランの創造とネットワークの構築に向けて活動を強化していきたい。



おはなしボランティア養成講座

団体の概要

「視覚障害児のためのわんぱく文庫」をはじめ、大阪府立中央図書館に活動の拠点をおく団体、もしくは関わりのある六つの団体が集まり、平成13年8月に結成された。大阪府全域を視野に入れた活動の展開と、「障害児を含めたすべての子どもに読書の喜びを」という二つの視点を大切にしている。

子どもの心を育む読書推進活動

実施団体名 やなはらどんぐりころころ会
連絡先 〒708-1543 岡山県久米郡柵原町書副180 柵原町立図書館「エイコンマナビ」内
 TEL：0868-64-7055 FAX：0868-64-7547
 E-mail：tosyo@pu.town.yanahara.okayama.jp

活動の概要

こどもたちが図書館に親しみを持ち、本やお話の楽しさを味わうことができるよう、毎月第1土曜日に読み聞かせとイベントを組み合わせた「おはなし会どんぐりころころ会」を開催した。また、大人を対象に読み聞かせボランティア養成講座や講演会を開催し、子どもの読書活動の支援を行った。

活動の内容

(1) おはなしどんぐりころころ会

紙芝居や絵本の読み聞かせと合わせて、エプロンシアター、腹話術、人形劇、アコーディオンやオカリナ演奏、マジック、バルーンアート、工作など、楽しいイベントや活動を行った。5月には折り紙教室、8月にはドライアイスを使った科学実験教室、11月はどんぐりの弥次郎兵衛作り、12月

のクリスマス会ではALT（中学校英語助手）によるゲームなど。また、図書館周辺には池や芝生広場があるので、シャボン玉遊び、凧揚げなど野外での活動も取り入れた。季節感を感じたり読書の幅が広がったりするような体験を工夫し、活動に応じた絵本の紹介もした。

(2) 読み聞かせボランティア養成講座

子どもと絵本を結びつけるボランティアを養成するために、5回講座を実施した。読み聞かせの基本的な技術や、昔話の語り方の実技指導による講習と、近隣のボランティアグループとの交流を行った。20代から70代まで幅広い参加があった。

(3) 子どもの読書講演会

子どもの読書の大切さを理解してもらうために、講演会を開催した。子どもの言葉と心を豊かに育



バルーンアート

み、生涯にわたって読書生活を楽しむ基礎をつくるために、読み聞かせが必要であることを理論的に学ぶことができた。

成果と課題

定期的に行うことで毎月の「おはなし会どんぐりころころ会」を楽しみにしてくれる親子の参加が増え、絵本の貸出が増加している。養成講座で学んだ人は毎月のおはなし会だけでなく、町内の小学校に出向いたり、ブックスタート事業やマタニティクラブ（妊婦学級）で読み聞かせを行ったりするなど活動が広がった。子どもの読書活動を支援するだけでなく、妊婦や乳児を持つ保護者へも読み聞かせの大切さを認識してもらうことができた。

おはなし会への参加者が少なかったり、参加者が固定化する傾向にあるので、PRの方法を工夫することで、より多くのこどもたちに参加してもらい、本の楽しさを味わって欲しい。



タラの葉を使って葉っぱのおたより

団体の概要

平成12年4月に町立図書館が開館したのをきっかけに翌年4月に発足。環境整備係、イベント係、読み聞かせ係があり、現在41名が図書館を拠点に各自得意分野で活動している。読み聞かせ係は毎月定期的に研修会を持ち、自己研鑽に励んでいる。会の中に人形劇グループも誕生し、毎月のおはなし会で活躍している。

入院中や自宅療養している子どもたちに、おはなしをプレゼント！

実施団体名 おはなしサンタ

連絡先 〒774-0030 徳島県阿南市富岡町西池田口8-12

活動の概要

入院中や自宅療養している子どもたちにおはなしを届けるため、病院や自宅などに出向く。季節のおはなしや工作を通して、季節感を味わったり、おはなしの世界を楽しみ、入院生活などにうれしい変化をつけることで、治療中の子どもたちの免疫力がアップすることも願って実施した。



プレイルームで七夕まつり

活動の内容

子どもたちの病状・感染予防に留意するため、医師・看護師のみなさんと連携し、病院のプレイルーム・病室のベッドサイド・外来受診の待ち時間・自宅療養している子どもたちの自宅でおはなしのプレゼントを実施した。

おはなし会のテーマは、入院中や自宅療養中のため、外出を制限される子どもたちが多いので、季節感を大切にしたいプログラムになるよう心がけた。読み聞かせ本リストを初回参加の子どもたちと保護者を対象に配布し、病室・自宅での読書タイムをもってもらえるように取り組んだ。

おはなし会のテーマ

- 4月 春
- 5月 こいのぼり
- 6月 はがきづくり
- 7月 七夕
- 8月 夏
- 9月 おつきみ
- 10月 ハロウィン
- 11月 秋
- 12月 クリスマス

- 1月 お正月
- 2月 豆まき
- 3月 ひなまつり

活動例

- 6月
 - はがきづくり（病室のベッドサイド）
 - 季節のおはなし ゆうびんのおはなし
 - 季節の工作 はがきづくり（暑中見舞い）
- 7月
 - 七夕まつり（プレイルーム）
 - 季節の歌 七夕
 - 季節のおはなし 七夕の紙芝居
 - 季節のあそび ヨーヨーつり



ベッドサイドではがきづくり

成果と課題

医学的にも、楽しいことやおはなしの力が子どもたちの免疫力をアップさせ、治療や病状にいい変化をもたらすことが知られるようになり始めた。その反面、免疫力が落ちて感染しやすい子どももいるし、プライバシーの問題もあり、外部から関わっていくのは難しい。

医師・看護師のみなさんと連携をとり、おはなし会を楽しみにしてくれている子どもたちの想いを尊重するとともに、病状・プライバシー・感染予防に留意しながら、おはなしのプレゼントをする方法を考え、希望する子どもたちのベッドサイドや外来の待ち時間を利用してのおはなしと自宅療養している子どもたちの自宅でのおはなし会も実施した。

読み聞かせ本リストを初回参加の子どもたちと保護者を対象に配布し、病室・自宅での読書タイムをしてもらえるように取り組んだことは、子どもゆめ基金の趣旨からも、子どもの読書活動の振興を図る活動ができたと思う。

団体の概要

図書館などのおはなし会に参加できない、入院中の子どもたちにもおはなしを届けたいという想いに賛同したメンバーが集まり、読み語りの経験を活かして、ゆめとおはなしを届ける「おはなしサンタ」を平成14年に発足した。希望される病院・病室・自宅に月1回出向き、おはなしをプレゼントしている。

子どもに絵本の楽しさを一やってみよう 読み聞かせ

実施団体名 高松 本とおはなしの部屋

連絡先 〒760-0014 香川県高松市昭和町一丁目2-20 高松市図書館内

TEL：087-861-4501 FAX：087-837-9114

活動の概要

家庭における読み聞かせの裾野を広げるため、子どもたちに読み続けられている絵本の大切さを伝える講演会と、読み聞かせボランティアのための研修会を開催した。

活動の内容

(1)研修会

①幼児（3～5才）への読み聞かせ

講師：読み聞かせボランティア

②幼児（1～3才）への読み聞かせ

講師：保育士

③ブックトーク（小学校低学年）

④ブックトーク（小学校高学年）

講師：学校司書（小学校）

(2)講演会

演題「心を育てる 心をつなぐ
—子どもが大好きな絵本に秘められたカー—

『こぐまちゃんえほん』『11ぴきのねこ』シリーズなど、子どもたちに愛され続ける絵本の出版に長年携わるこぐま社社長 佐藤英和氏を講師に迎え、講演会を開催した。

成果と課題

(1)研修会

保育所等現場の子どもたちの様子が紹介された。TV・ビデオ等による影響か、子どもたちが、まわりの人々とコミュニケーションがうまくとれない状況の中で、毎日のことばかけや、スキンシップの大切さと、あわせて、わらべうたや読み聞かせが子どもたちの成

長に大変重要であることを学ぶことができた。また、多くのボランティアや小・中学校教員の参加を得て、図書館や学校での読み聞かせ・ブックトークが広がるきっかけとなった。

(2)講演会

講師のスライドを使った読み聞かせを体験し、改めて、読み聞かせの楽しさを理解することができた。まだ文字を読めない子どもも、お話を聞く力や絵を読む力を持っていることに気付かされ、読み聞かせの大切さを再認識した。

幼い子を持つ親のために講演会

に託児を用意し、参加しやすい環境を整えた。そのことにより、これまで絵本に関心が無かったり、どんな絵本を読めばいいか悩んでいる若い父親・母親に学びの機会を与えることができた。

●研修会・講演会ともに大勢の方からの共感が示され、引き続き、読み聞かせ（等）を学ぶ機会が提供されるよう求められた。これからも読み聞かせの素地となる昔話やわらべうた等の研修会を企画して、子どもの心を育む活動を続けていきたい。



たくさんの方々に講演に来ていただいた

団体の概要

高松市図書館が公募した図書館ボランティアが母体となって発足し、毎月、定例のおはなし会やブックスタート等、図書館での子ども向けの行事を行っている。

また、広く市民に向けて、読み聞かせのための講演会や研修会を行っている。

西有家町おはなしの会

実施団体名 こもれび
連絡先 〒859-2212 長崎県南高来郡西有家町須川493-3西有家図書館内

活動の概要

活字離れが危惧される昨今、継続的な読み聞かせ活動を実施することにより子どもの集中力、言語能力の育成を図るとともに読書への興味や関心に繋がればと思い活動を実施する。子どもたちがより興味を引くように読み聞かせはもとより、手作りのパネルシアターや布絵本を活用したり、手遊び、わらべうたを組み込んだりと工夫を凝らしたプログラムを毎回考えて実施した。



パネルシアターを演じている

活動の内容

(1)おはなしの会の開催

毎月第3土曜日午前10時より西有家図書館において実施した。(年4回) また、交通のアクセスの悪い地区の公民館にも出張して実施した。(年8回)

主に地域の小学校、幼稚園、保育園にチラシを配布して参加者を募集した。毎回20~30名の参加があり、多いときには50名を越えたときもあった。

内容は地域の保育園の先生や有志の方々の協力のもと、季節や1つのテーマに基づいてプログラムを考え実施した。

《活動例》9月のおはなしの会 (テーマ：星)

- ①ペープサート 「わたしのワンピース」
- ②ロール絵本 「しずくのぼうけん」
- ③読み聞かせ 「星どろぼう」
- ④読み聞かせ 「ほしのあかちゃん」

⑤紙芝居 「ぱちんぱちんきらり」 《活動例》12月のおはなしの会 (テーマ：クリスマス)

- ①ブラックシアター 「星のクリスマス」
- ②大型紙芝居 「あのね、サンタの国ではね」
- ③紙芝居 「ふたりのサンタ」
- ④読み聞かせ 「ラブ・ユー・フォーエバー」
- ⑤パネルシアター 「クリスマスキャロル」

(2)人形劇を観る会 平成14年度 7月実施

日頃演劇や人形劇を観る機会のない子どもたちに生の人形劇を体験させてあげたいと思いこの会を実施した。

京都のつげくわえ氏による「くわえパペットステージ」の楽しく、ユーモアあふれ、夢いっぱいの人形劇を子どもたちと一緒に満喫する事ができた。

公演終了後、つげ氏を囲んで座談会を設け表現の仕方、子どもの心のつかみ方などを教えていただいた。

成果と課題

会を重ねるごとに子どもたちのお話の世界への興味が広がり、集中してお話が聞けるようになった。目を輝かせて聞いている子どもたちの姿を見ることが私たちの何よりの喜びであり活動の糧となっている。

今年度は交通のアクセスの悪い地区への出張回数を増やして活動の輪を広げたが、私たちの活動に刺激を受け各地区で個々にボランティアが発足し、各地区がその地区のボランティアの方々に読み聞かせの活動が盛んになることが理想である。また、おはなしの会を体験した多くの子どもたちが地域に根ざした次の語り部として育つことを期待している。

団体の概要

私たち「こもれび」は長崎県・島原半島の南に位置する西有家小学校の母親たちが中心になって発足した。この「西有家おはなしの会」の活動のほか小・中学校の朝読やお昼休みに読み聞かせを行ったり、小学校の図書室の環境整備(室内の飾り付け、本棚の整理、図書の修理)もおこなっている。私たちはこの活動を通じてたくさんの子どもたちとたくさんの本に出逢った。子どもたちと本の世界を共有出来ることに充実感を覚え、これからも子どもたちに優しく暖かな光をそそぐ「こもれび」でありたいと願っている。

ノーベル博士の科学教室

実施団体名 全国視聴覚教育連盟

連絡先 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 視聴覚ビル
TEL/FAX : 03-3591-3176
URL <http://www.zenshi.jp>

教材の概要

本教材は、子どもたちが気軽にできる科学実験を、いろいろな視点からとらえ構成し、自分のからだや、身近にある材料を使用することで、どこでも、誰でも気軽に科学の面白さや不思議さを体験できることを目的に開発された。教材はCD-ROMと実験キット1セット（20アイテム入り）からなるもので、内容は「手作り科学遊び—からだを使った科学手品」「同一型紙を使った科学工作」「身近な材料で科学実験」「チャレンジ!! 科学実験」の4つのパートからなる。

教材の活用法

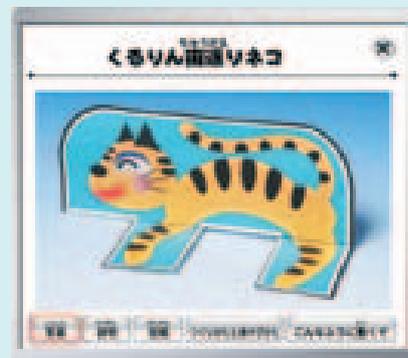
幼児から中学生を対象にした「科学遊び」「科学実験」について、その遊び方や楽しみ方をくわしく解説する。「視聴覚センター・ライブラリー」や「科学館・児童館」に来館する子どもたちや保護者が当該教材に接し、体験することで、科学の楽しさや不思議さが実感できる。また、さまざまなイベントや教室の教材として手軽に利用できる。インターネットのホームページを通して、多くの子どもたちが自由にコンテンツを活用し、科学遊びや科学実験を行うことができる。各家庭でも親子や子どもたち同士で手軽に楽しむことができる。

○手作り科学遊び—からだを使った科学実験（腕や足などからだを使ったふしぎな手品）自分のからだを使ってできる不思議な実験を紹介する。

○手作り科学遊び—型紙を使った科学工作（型紙を使って楽しく遊べる科学工作）科学遊びに必要な材料を原寸大の型紙に印刷出力して組み立てる。

○身近な材料で科学実験—身近な材料を使った楽しい実験を紹介する。友だちや家族といっしょに楽しむことで、小さい頃から実験をする楽しさを味わうことができ、その科学的根拠を大人が子どもに話して聞かせることで、子どもが科学に対してより親近感をもつようになる。

○チャレンジ!! 科学実験—科学館・児童館などで行われている実験教室などにも十分に使える実験キット。自由研究など体系的に実験を行う人のために、「研究のポイント」や「研究レポートの書き方」も紹介する。



くるりん宙返りネコ

教材の普及状況

視聴覚センター・ライブラリー、児童館、科学館等に無料配布。

なお、コンテンツの一部はインターネット（<http://nobel.zenshi.jp/menu.html>）による配信を行っている。



すいこまれるタマゴ

団体の概要

全国視聴覚教育連盟（略称 全視連）は、社会教育・学校教育における教育メディアの活用・制作・研修活動等を進めるとともに、地域の教育メディア供給の拠点となる視聴覚センター・ライブラリーの連携や支援を目的として活動している団体。月刊「視聴覚教育時報」の発行、毎年、視聴覚教育総合全国大会を開催。

けん玉で楽しく遊んでみよう

実施団体名 財団法人 日本視聴覚教育協会
連絡先 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 視聴覚ビル
 TEL : 03-3591-2186 FAX : 03-3597-0564
 URL : <http://www.javea.or.jp>

教材の概要

本教材は小学生を対象に、けん玉の入門者向けCD-ROM教材として、コンピュータの特性を生かし、多様な映像表現やインタラクティブ性により、けん玉の基本的な技の「コツ」を理解させ、よりたのしい練習を促進するとともに、けん玉のルーツや、けん玉の構造、また、実際にけん玉を作ってみたりすることにより、子どもたちに、けん玉の持つ不思議な魅力を体験させることを目的としている。

教材の活用法

本ソフトを例えばプロジェクターを使って投影することにより、けん玉の技をグループで一緒に身につけることができる。グループで一緒に学習することによって、理解の早い子どもが他の子どもに教え合うということにも繋がっていく。また、けん玉を使用した競技を3種類収録することにより、友達同士で遊んだり・競い合ったりすることができ、コミュニケーション能力の育成にもつなげていく。競技はグループに分かれて対決するもの。参加者全員でタイムを競うもの。1対1の対決で、技術的な個人差も配慮し、技術レベルが異なっても出来るタイプのもを収録する。これらの競技は他の地域や他のグループとの交流にも役立つ。

本ソフトは、けん玉の持ち方・構え方・基本的な技などをパソコンの特性を活かして、理解させ、



教材を使用する子どもたち

身につけさせることが出来るようなフォロー教材としても使える。具体的には、けん玉の技を3つのアングルでの動画を用意し、さらに必要に応じてのスロー再生、アニメ（線画）を用いた拡大画像などで理解を助ける。また、「コツ」「ヒント」「練習」といった動画やアニメ（線画）により、子どもたちのつまづきを取り除く工夫もある。本ソフトに収録されているけん玉の技を身につければ、例えば施設の高齢者をはじめさまざまな年代の人との交流活動にも役立てることができる。けん玉を使った遊びを子どもたちが工夫して考え出すといった創造力の育成にも広がる可能性も十分にある。

さらに「特定非営利活動法人日本けん玉協会」の協力のもと、

けん玉の級位に関する基準や、チェックシートを収録し、そして認定書もプリントアウト出来るようにしているため、利用者が子どもたちに認定のテストを行い、認定書の発行も可能である。級位を与えることにより、子どもたちのモチベーションを高める。認定試験までの間、子どもたちがお互いに教え合い、助け合うような活動もできる。

教材の普及状況

大型児童館・児童センター等や視聴覚センター・ライブラリーに無償配布。なお、コンテンツの一部はインターネット (<http://www.javea.or.jp/kendama/>) による配信を行っている。

団体の概要

財団法人日本視聴覚教育協会は教育方法の革新、改善をめざし、視聴覚教育の普及・振興を推進する公益法人です。月刊「視聴覚教育」の発行、市販教育映像ソフトのコンクール、エル・ネット「オープンカレッジ」事務局担当などの事業を実施。

こうまのがっこう～馬と友達になろう～

実施団体名 馬の学校

連絡先 〒560-0084 大阪府豊中市新千里南町3-27-26

TEL/FAX : 06-6832-8455

E-mail : mine@dp.u-netsurf.ne.jp URL : http://www.horseschool.org

教材の概要

馬は昔から人との関わりが深い動物の一つであり、近年障害児や不登校児を含む子どもたちの教育、あるいは体験学習の一環として馬との関わりが注目されつつある。そこで、それらの活動の導入や、活動によって馬に関心を持った子どもたちが、自主的に馬について調べる事ができる教材として「こうまのがっこう」を作成した。従来の動物図鑑のような馬の生物学的な知識に加えて、馬の生活や乗馬方法など人と馬との関わりの中で必要な知識や、また馬に関わる仕事についても取り上げ、馬について総合的にかつ楽しく学ぶことができるようになってきている。小学校低学年から使えるよう、すべての漢字にルビをつけ、音声による解説も行っている。

主なコンテンツは以下のとおり。

(1) 馬を知ろう (知識編)

馬の体について／馬の道具について／馬の生活について

(2) 馬と仲良くなろう (実践編)

馬と友達になろう／馬と会えるところ／馬にかかわる仕事

(3) クイズやゲームで遊ぼう

馬のパズル／馬のクイズ／馬のぬり絵

(4) もっと詳しく調べよう

本で調べる／ホームページで調べる／メールで質問

教材の活用法

馬に関わる活動の導入・事前学習として、子どもたちあるいは保護者が利用する。例えば「馬に乗ったり世話をしてみたいけど、怖くないかなあ」と思っている子どもの場合、馬と仲良くなる方法を

知ることができれば、安心して活動に参加できるだろう。

一方、活動を通して馬に関心を持った子どもたちが、さらに知識を深めるために利用することもできる。例えば、「私を乗せてくれた馬は、夜どうやって寝ているのかな？」というような疑問を持った場合にも自分で調べることができる。そして「本当かどうか見てみよう」ということで次の体験に対する意欲が高まり、そこで実際に確認してみることで本物の知識として身につけることができるだろう。

さらに子どもと馬との間に入る乗馬指導者等が参考にすることで、子どもたちが馬から学ぶことの多様さを再確認し、子どもたちに乗馬技術だけでなく、馬との心の交流を学ばせることを考えるきっかけにもなるだろう。そしてそのことは子どもたちが馬との関わりでの体験ができる場を増やすことにもつながると考えられる。

教材の普及状況

写真や動画を多数使用しているため、CD-ROMで配布している。子どもたちを対象とした乗馬を行っている乗馬施設や団体に送付したほか、馬の学校HPにて内容の紹介等を行ったり、新聞でも取り上げられ、教育関係者や子どもに見せたいという保護者、馬が好きだという子ども本人からも申し込みがあった。今後は、青少年育成団体や社会教育団体、教育委員会等への普及も図っていききたい。



「こうまのがっこう」TOP画面

団体の概要

馬とのかかわりの中で体験することを、それぞれの子どもに応じた方法で、生きていくために必要な力に深めていくことを目指している民間団体。現在は大阪・京都・山梨にて、馬とのふれあいプログラム、ファミリープログラム、ウマキャンプ等を行っている。

デジタル・キッズマート

実施団体名 特定非営利活動法人 日本起業家教育協会
連絡先 〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-6-3 新大阪大同ビル4 F
 TEL：06-6100-3242 FAX：06-6100-3243
 E-mail：info@jaee.org URL：http://www.jaee.org

教材の概要

本教材の目的は、子どもたちが気軽にキッズマートを疑似体験できる環境を提供することである。

キッズマートとは子どもの商売体験活動であり、子どもたちが「商売」という世の中に不可欠な活動を通して、自ら考え行動する力などを養うことができるイベントである。キッズマートを体験することにより、①自分で考え行動する力、②学校の勉強を実社会で活用する力、③仲間と協力する力、などを得ることができる。

本教材の想定利用対象は小学生高学年以上（低中学年でも大人の補助があれば利用可）、想定利用時間は4時限（1時限は45分）もしくは5時限（発表会を含む場合）で、内容は以下の3章建てで構成している。

第1章 商売とは

子どもたちが商売のことを知るためには「自分と世の中をつながり」を意識することが必要である。そのため、子どもたちにとって身近な商品「鉛筆」と「文房具屋さん」を取り上げ、商売を勉強する上で最低限必要だと思われる内容を中心にアニメーションで説明している。

第2章 会社を作ろう！

子どもたちがお店を作る際に、最低限知っておかなければならないと思われる内容を、実際のキッズマート映像とアニメーションで説明している。

内容は、会社設立、商品決定、会社名決定、経営理念決定、利益、仕入れと売り値、借入れ、宣伝について、である。

この章では、子どもたちが5～7人でグループを作って、ワークシートを使って話し合いながら、1つの会社を作り上げていく。

第3章 ケーススタディ

ケーススタディ方式で、実際のキッズマートで起こる様々な出来事やトラブルを解決していく。第2章で集まったグループで販売やキッズマートをより理解していくことを目的としている。各グループのメンバー全員が主体的に取り組めるよう、各役職が先頭にたって考えられるような構成になっている。ケーススタディの題材は次のとおり。

チラシを作ろう、商品説明をしよう、おつりの計算をしよう、販売方法を考えよう、収支計算をしよう。

教材の活用法

本教材は、子どもたちの①自分で考え行動する力、②学校の勉強を実社会で活用する力、③仲間と協力する力を育成するのに役立つ。以下の機会に活用することができる。

- ・起業家教育、キャリア教育、経済教育、地域教育をはじめとする社会教育一般（生涯学習）
- ・キッズマートに参加する機会の



デジタル・キッズマート

ない子どもたちのキッズマート疑似体験活動

- ・キッズマート参加者への予備学習および事後強化学習
- ・学校における総合的学習の時間、社会科の時間、情報教育（パソコン利用の時間）

教材の普及状況

本教材は大容量の映像、アニメーションを収録しているため、冊子付CD-ROMでの配付を行なっている。なお、本教材への関心度は高く、アントレプレナーシップ教育フォーラムでの教材紹介、新聞での記事掲載によって、多数お問い合わせを頂き、平成16年3月までに全国で1,650部を無償配布した。

今後、平成19年3月までに350部の配布を予定しているため、本教材を入手されたい方は当団体までお問い合わせを。

団体の概要

起業家教育やキャリア教育を通して、「夢を自ら発見し、実現できる青少年」を育て、活力ある日本にすることを目的として活動している。現在、①キッズマート、②様々な仕事を学ぶことで仕事観、人生観等を養うドリカムスクール、③仕事力を養う長期実践型インターンシップ「アントレターン」、④教育プログラム制作（主な実績として、中学生向け教材「大阪企業家列伝」など）を行なっている。

富士山クラブ 富士山自然体験学習ソフトウェア

実施団体名 特定非営利活動法人 富士山クラブ

連絡先 特定非営利活動法人 富士山クラブ 本部・東京事務所

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-13 浜松町パークビル2階 TEL: 03-5408-1541 FAX: 03-5408-1507

E-mail: jimukyoku@fujisan.or.jp URL: http://www.fujisan.or.jp

教材の概要

総合学習の場として、全国から子供たちが訪れる富士山。動きのあるイラストや写真を活用し、GISシステム（地理情報システム）の使用により、実際には見ることができない富士山の全体像が理解できるなど、デジタル教材の特性を活かし、子どもたちがゲーム感覚で、富士山の自然や環境を疑似体験し、学習できるように構成している。子どもたちが自分で考えながら、富士山学習を進められるよう内容を工夫、富士山自然環境のデジタル百科事典のように利用できるように制作した。

教材の活用法

エコツアーなど自然体験学習で、富士山を訪れる子どもたちの事前学習や事後学習の教材として利用できる。また児童館や子ども会などの公共団体が主催するイベントなどで、富士山学習の教材として活用されている。また富士山クラブ山梨事務所でも、学習室でいつでも利用できるようになっている。コンテンツは、「樹海の中をのぞいてみよう」



樹海のエコツアーが模擬体験できます

てみよう」、「富士山周辺散歩」、「富士山の環境と問題」、「富士山の雑学」と大きく4つに区別されている。

「樹海の中をのぞいてみよう」

- 青木が原樹海のエコツアー

樹海のエコツアーが疑似体験できる。樹海の自然環境保護のための約束ごとを導入に、動物たちの動きや様子がリアルに表現され、実際のエコツアーで学習する内容がコンパクトにまとめられている。

- 樹海図鑑

青木が原に住む鳥や動物たち、そして植物ほかについて、専門家のわかりやすい文章で解説されている。鳥のページはその鳥の鳴き声を収録、音声で聞くことができる。

「富士山周辺散歩」

- 富士山のCG模型

富士山の立体画像をキーボードで自由に動かすことで、さまざまな方向からの富士山を目で捕らえることができる。

- 植物の垂直分布

頂上から3つの高さにおける植物分布が、写真とわかりやすい文章で説明されている。

- 富士山の周辺地図

3Dの地図で、湖や風穴などの位置が特定され、その場所については、写真とわかりやすい文章で説明されている。

「富士山の環境と問題」

- 世界遺産について、●ゴミ問題と取り組み、●姉妹山提携、の3つのカテゴリーに分け、実際の環境問題に富士山クラブがどのように取り組み活動しているかを紹介している。



富士山学習をはじめのメイン画面

「富士山の雑学」

- 富士山雑学クイズ、森のうつりかわり、●フジと名のつく植物、●富士山誕生、の4つのカテゴリーに分けられている。「森のうつりかわり」と「富士山誕生」は、時代ごとに移りかわり、変化していくようすが、画面の変化でわかりやすく理解できるように構成されている。

教材の普及状況

山梨県と静岡県の小中学校及び、エコツアーに参加した全国の小中学校に、配布を開始している。また、新聞やテレビなどメディアを通じてこのCD教材を紹介し、教育機関や個人の希望者に配布している。富士山クラブ通信、ホームページ、イベントなどで機会があるごとに、パソコンでデモンストラーションし、教材の積極的な活用を呼びかけている。子どもたちだけでなく、教師や親でも楽しめると評判を得ている。今後は、インターネット上で公開できるようにしたい。

団体の概要

NPO法人富士山クラブは、富士山の豊かな自然とその環境を守るために、市民ならではの知恵とパワーを活用し、富士山の自然環境保全活動に取り組む市民団体です。富士山を世界遺産にすることを活動目標の一つとして、子どもたちのために美しい富士山を残していくために、富士山を長期的視野にたって、総合的で具体的な実践活動をおこなっている。

平成16年度 応募・採択状況

◇活動区分別応募・採択状況

(単位:千円)

活動区分	応募件数	採択件数	内定額
子どもの体験活動	1,837	1,611	1,319,642
子どもの読書活動	351	317	209,506
教材開発・普及活動	94	23	232,335
合計	2,282	1,951	1,761,483

◇子どもの体験活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	93	89	60,097
青森県	15	12	5,483
岩手県	20	19	8,174
宮城県	14	12	8,453
秋田県	8	7	2,906
山形県	14	9	4,130
福島県	17	17	16,036
茨城県	37	35	24,970
栃木県	30	27	12,290
群馬県	30	25	14,955
埼玉県	45	38	24,060
千葉県	60	52	34,914
東京都	332	284	474,900
神奈川県	48	44	33,665
新潟県	25	23	13,666
富山県	21	19	18,745
石川県	12	10	4,795
福井県	33	24	29,140
山梨県	23	22	17,289
長野県	77	70	60,035
岐阜県	16	13	10,605
静岡県	55	51	30,852
愛知県	30	24	24,586
三重県	26	22	18,590

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
滋賀県	47	39	18,525
京都府	58	54	29,342
大阪府	183	159	82,760
兵庫県	48	41	21,038
奈良県	18	13	7,514
和歌山県	15	11	10,691
鳥取県	17	16	5,669
島根県	10	10	8,054
岡山県	30	26	13,983
広島県	21	17	14,280
山口県	20	19	7,364
徳島県	30	24	18,046
香川県	13	12	4,523
愛媛県	13	12	5,345
高知県	9	7	5,180
福岡県	84	80	43,656
佐賀県	8	7	3,899
長崎県	14	11	6,192
熊本県	48	45	32,230
大分県	11	10	4,450
宮崎県	9	7	2,683
鹿児島県	40	34	15,156
沖縄県	10	9	5,726
総計	1,837	1,611	1,319,642

※応募団体の所在地である都道府県別に集計した件数・金額である。(以下、同じ)

◇子どもの読書活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	10	10	5,779
青森県	1	1	37
岩手県	6	6	4,899
宮城県	4	4	5,944
秋田県	2	2	554
山形県	2	1	465
福島県	10	8	6,682
茨城県	4	4	1,287
栃木県	4	4	881
群馬県	1	1	250
埼玉県	8	8	1,923
千葉県	7	6	851
東京都	42	40	77,293
神奈川県	7	6	805
新潟県	5	5	1,590
富山県	4	2	496
石川県	2	2	1,254
福井県	3	3	1,020
山梨県	3	3	698
長野県	14	13	3,760
岐阜県	3	3	486
静岡県	5	4	1,066
愛知県	3	3	887
三重県	2	2	395

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
滋賀県	22	20	10,697
京都府	15	12	3,038
大阪府	42	38	10,867
兵庫県	10	8	7,054
奈良県	4	3	2,129
和歌山県	0	0	0
鳥取県	4	3	5,904
島根県	7	6	2,558
岡山県	12	12	8,217
広島県	2	1	898
山口県	2	2	4,026
徳島県	12	12	3,472
香川県	4	3	826
愛媛県	3	1	949
高知県	1	1	388
福岡県	21	18	5,695
佐賀県	0	0	0
長崎県	4	4	841
熊本県	7	7	6,438
大分県	4	3	501
宮崎県	10	10	5,678
鹿児島県	8	8	4,299
沖縄県	5	4	5,729
総計	351	317	209,506

◇教材開発・普及活動都道府県別応募・採択状況

(単位:千円)

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
北海道	3	1	12,128
秋田県	1	0	0
福島県	1	0	0
茨城県	1	0	0
栃木県	1	1	9,966
群馬県	1	1	14,314
埼玉県	2	2	18,223
千葉県	2	1	4,948
東京都	37	11	114,992
神奈川県	3	0	0
福井県	3	0	0
長野県	2	0	0
岐阜県	4	0	0
静岡県	2	2	24,317
愛知県	5	0	0
滋賀県	1	1	6,200

都道府県	応募件数	採択件数	内定額
大阪府	9	1	7,112
兵庫県	2	0	0
奈良県	2	0	0
鳥取県	1	0	0
島根県	1	0	0
山口県	1	0	0
香川県	1	0	0
愛媛県	1	0	0
福岡県	1	0	0
長崎県	2	0	0
熊本県	1	0	0
宮崎県	1	0	0
鹿児島県	1	1	3,000
沖縄県	1	1	17,135
総計	94	23	232,335

子どもの文化交流体験事業

事業の概要

子どもたちに、国内外の原作本や絵本を通じて読書の楽しさを知ってもらうとともに、表現力を高め、創造力を豊かなものにしていく交流体験の機会を提供することにより、子どもの読書活動及び文化交流活動の重要性について普及・啓発を図るため、超党派の国会議員で構成される「子どもの未来を考える議員連盟」（会長：扇千景参議院議員）の参画を得て、「子どもの文化交流体験事業」を実施いたしました。



主催者挨拶を行う扇千景子どもの文化交流体験事業実行委員会委員長

この事業は、平成16年3月6日(土)のオープニングセレモニー及びエリック・カール氏によるワークショップを皮切りに、3月30日(火)までの間、東京都、青森県、三重県、山口県、福岡県各会場で3つの企画を柱に41事業が展開し、幼児から大人まで幅広い層から5,449人（エリック・カール展への来場者を除く）の参加を得ました。



ワークショップ時の風景 右から扇千景先生・松あきら先生・岸田今日子さん

活動の内容

この事業は、A企画、B企画、C企画の3つの企画から構成しました。

A企画は、

「絵本の世界の楽しさを体験する活動」として、世界的絵本作家エリック・カール氏の絵本の世界を体験することを通じて、子どもたちに絵本の楽しさを知ってもらう企画としました。

平成16年3月6日(土)に東京上野の国立国会図書館国際子ども図書館でオープニングセレモニー及びエリック・カール氏によるワークショップを開催しました。

オープニングセレモニーでは、東京都、青森県、三重県、山口県、福岡県の各会場を中継して、子どもの未来を考える議員連盟の会長の扇千景参議院議員、同議員連盟事務局次長松あきら参議院議員のご列席のもと、扇千景参議院議員及び河村建夫文部科学大臣（子どもの未来を考える議員連盟事務局長）からの主催者挨拶の後、女優の岸田今日子さんによる朗読と、エリック・カール氏のワークショップが行われました。これらの模様は、インターネットで全世界に向け発信いたしました。

また、国立国会図書館国際子ども図書館では、エリック・カール氏の原画や絵本の公開展示が、この翌日の平成16年3月7日(日)から30日(火)の間に行われ、9,397名の来場がありました。来場者からは、間近で見ることのできる貴重な機会の提供に感動の声が聞かれました。



主催者挨拶を行う河村建夫子どもの文化交流体験事業実行委員会事務局長



ワークショップを行うエリック・カール氏



B企画の開会式に出席された実行委員の方々
(右から、扇千景先生、河村建夫文部科学大臣、肥田美代子先生、岩永峰一先生)



言葉遊びと音楽ワークショップの様子

B企画は、

「子どもの文化交流体験ワークショップ」として、全国各地から参加した子どもたちが、本の読み語りや表現ワークショップを体験し、それを発表することを通じて交流体験を深める企画としました。

参加者は、平成16年3月19日(金)から3月21日(日)までの2泊3日で、客船「ふじ丸」に乗船し、東京湾周辺海域をクルーズするとともに、船内で、子ども参加のワークショッ



ミュージカルワークショップの様子

プ8企画、大人のためのセミナー・ワークショップ6企画に参加しました。

子どもたちは、それぞれが希望するワークショップに参加しました。最初は、少し戸惑い気味でしたが、時間がたつにつれ真剣なまなざしで取組むようになり、最終日には、それぞれ参加したワークショップで創り上げた、ミュージカルや演劇等を全参加者の前で発表しました。

- オリジナルミュージカルワークショップ
- ミュージカルワークショップ
- 言葉遊びと音楽ワークショップ
- ストリングラフィ・ワークショップ
- 演劇&舞踊ワークショップ
- ダンス&マイム・ワークショップ
- 古典を読み語る、落語ワークショップ
- 海の自然体験や船の体験ワークショップ



ダンス&マイム・ワークショップの様子

C企画は、

「子どもの読書体験・舞台芸術体験活動」

として、子どもたちの読書や舞台芸術への関心や興味を深めるため、国内外の優れた舞台芸術作品の原作本を通じての読書活動や舞台芸術出演者によるワークショップ等を、平成16年3月6日(土)～3月30日(火)に、実施しました。

(1) 「原作本を通じた文化交流体験」

演劇等の実演の後、出演者と交流体験を行う企画を東京都、青森県、三重県、山口県、福岡県で実施しました。(4企画26回)

①エリック・カール作『はらぺこあおむし他3作品』

②英国民話より『ベルのぼうけん』

③宮澤賢治原作『どんぐりと山猫』

④ファミリーコンサート

(2) 「パフォーマンスを通じた文化交流体験」

子どもの参加するワークショップやステージ体験交流を行う企画を東京都、三重県、山口県で開催しました。(2企画4回)

①ピアノコンサート『亀さんひとり旅』

②創作ミュージカル・ワークショップ

(3) 「絵本を通じた文化交流体験」

絵本に関する講座、読み語り講座、子ども参加ワークショップの企画を青森県、三重県、山口県、福岡県で実施しました。

(7企画10回)

①読み語り・紙芝居／コラージュ体験

②コラージュ体験とエプロンシアターワークショップ



海の自然体験や船の体験ワークショップの様子

③キミ子方式色づくりワークショップ

④～100匹のあおむし、100匹の蝶～創造と表現コラージュワークショップとボディムーブメント／絵本展

⑤絵本講演会・読み語りとワークショップ

⑥家庭で共有してきた児童書・絵本、著名人メッセージ展示 読み語り手交流・講演会と読み語り

⑦子ども文化交流フェスティバル(福岡県)

オープニングから最終日にいたるまで、約1ヵ月の間、東京都、青森県、三重県、山口県、福岡県の各地域で事業を展開しました。

全ての会場が子どもたちでいっぱいとなり、初めての体験に大喜び、また、子どもと一緒に会場にやってきた保護者も子どもと一緒に参加、子どもと大人の喜ぶ声が会場いっばいにひびきわたり、全ての事業が大盛況のうちに終了しました。



英国民話より「ベルのぼうけん」の体験の様子

子どもゆめ基金への寄附団体

平成15年度は次の団体から寄附を頂いています。

(あいうえお順・敬称略)

●株式会社アサヒ情報

●タフカ株式会社

●アスカフューチャーズ株式会社

●中央無線タクシー協同組合

●株式会社石野電気

●株式会社テムス

●株式会社イトーキ

●社団法人日本経済青年協議会

●栄光電気株式会社

●日本シティビルサービス株式会社

●株式会社ガイア

●日本テクノストラクチャ株式会社

●株式会社宏隆

●財団法人日本ユースホステル協会

●株式会社サンテックス

●東鉄ビルメン株式会社

●財団法人社会経済生産性本部

●株式会社東電通

●シンドラエレベータ株式会社

●東邦大学医学部附属大橋病院

●特定非営利活動法人 SSS札幌サッカースクール

●ビステオン・ジャパン株式会社

●株式会社清和ビジネス

●フジフューチャーズ株式会社

●株式会社善光堂印刷所

●株式会社ホマレ電池

●株式会社全日警

●松下電器産業株式会社

●全日本遊技事業協同組合連合会

●株式会社ミルボン

●株式会社泰平総合建設

●森永フードサービス株式会社

●高橋野線印刷株式会社

●渡辺工業株式会社

子どもゆめ基金ガイド2004 2004年9月発行

編集 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 基金部

発行 独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 管理課：03-5790-8160 助成課：0120-579081

URL <http://cs.kodomo.nyc.go.jp/yume/index.html>

E-mail yume@nyc.go.jp

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することとしています。

つきましては、下記の募金口座にて受付しております。広く皆様の御理解と御支援を何卒お願い申し上げます。

郵便振替口座

口座番号	10070-74540451
口座名義	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 子どもゆめ基金

銀行口座

銀行名	東京三菱銀行 渋谷支店
口座番号	135-3025103
口座名義	独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 子どもゆめ基金

子どもゆめ基金に対する御寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

独立行政法人
国立オリンピック記念青少年総合センター